

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成23年6月28日
【事業年度】	第25期（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）
【会社名】	株式会社メルコホールディングス
【英訳名】	MELCO HOLDINGS INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 牧 誠
【本店の所在の場所】	名古屋市中区大須三丁目30番20号
【電話番号】	(052)251-6891
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 松尾 民男
【最寄りの連絡場所】	名古屋市中区大須三丁目30番20号
【電話番号】	(052)251-6891
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 松尾 民男
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第21期 平成19年3月	第22期 平成20年3月	第23期 平成21年3月	第24期 平成22年3月	第25期 平成23年3月
売上高 (百万円)	134,547	139,571	120,276	116,911	123,749
経常利益 (百万円)	5,446	5,439	2,258	7,652	10,954
当期純利益 (百万円)	2,728	3,615	707	4,990	6,277
包括利益 (百万円)	-	-	-	-	6,260
純資産額 (百万円)	26,962	29,464	28,652	33,240	38,606
総資産額 (百万円)	62,575	57,766	52,080	62,970	71,601
1株当たり純資産額 (円)	1,166.24	1,286.73	1,271.29	1,468.22	1,707.75
1株当たり当期純利益 金額 (円)	118.01	156.74	31.41	224.66	282.59
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	118.00	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	43.1	50.7	54.2	51.8	53.0
自己資本利益率 (%)	10.5	12.9	2.5	16.4	17.8
株価収益率 (倍)	25.68	10.81	36.20	9.22	9.51
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,379	3,520	4,164	12,133	10,719
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	710	2,072	2,155	12,262	10,340
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,993	1,114	1,440	801	889
現金及び現金同等物の期末 残高 (百万円)	7,979	12,428	12,900	11,977	11,415
従業員数 (人)	824	979	893	871	873
[外、平均臨時雇用者数]	[493]	[553]	[391]	[380]	[427]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第22期、第23期、第24期及び第25期は希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第21期 平成19年3月	第22期 平成20年3月	第23期 平成21年3月	第24期 平成22年3月	第25期 平成23年3月
売上高 (百万円)	17,133	2,103	7,444	2,859	6,082
経常利益 (百万円)	16,058	648	5,954	1,123	4,304
当期純利益 (百万円)	15,842	243	5,725	1,309	4,058
資本金 (百万円)	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
発行済株式総数 (株)	23,125,773	23,125,773	22,237,873	22,237,873	22,237,873
純資産額 (百万円)	32,733	31,703	36,088	36,682	39,847
総資産額 (百万円)	33,285	33,637	37,629	39,585	44,734
1株当たり純資産額 (円)	1,415.83	1,392.37	1,624.27	1,651.04	1,793.76
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	30.00 (15.00)	32.00 (15.00)	34.00 (17.00)	37.00 (17.00)	60.00 (20.00)
1株当たり当期純利益金額 (円)	685.28	10.57	254.13	58.96	182.69
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	685.20	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	98.3	94.2	95.9	92.7	89.1
自己資本利益率 (%)	48.4	0.8	15.9	3.6	10.2
株価収益率 (倍)	4.42	160.36	71.42	35.14	14.71
配当性向 (%)	4.38	302.74	13.40	62.75	32.84
従業員数 (人)	50	59	63	70	83
[外、平均臨時雇用者数]	[-]	[-]	[-]	[-]	[1]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

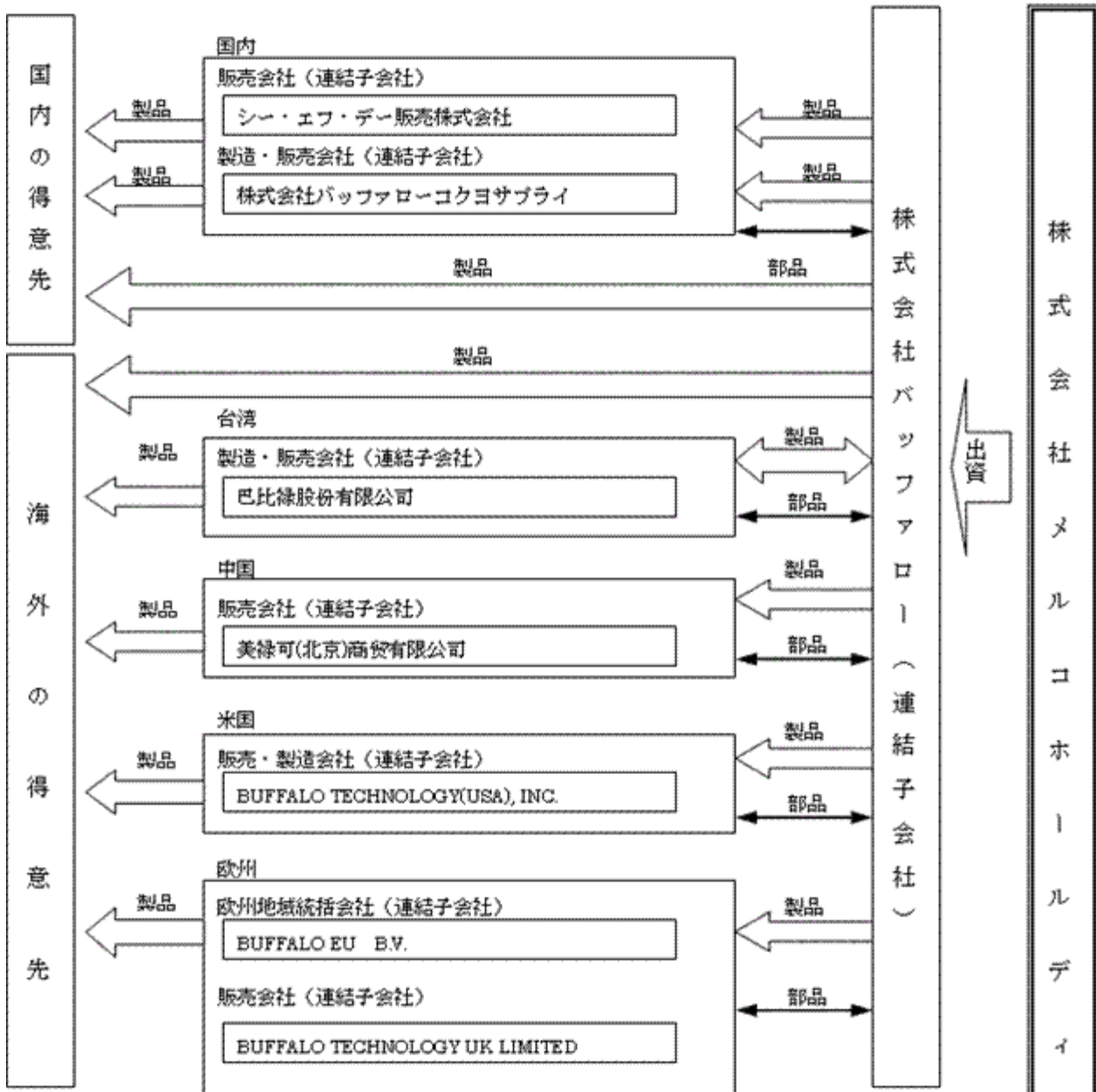
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第22期、第23期、第24期及び第25期は希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【沿革】

年月	事項
昭和53年8月	音響機器製品の製造、販売を目的として名古屋市天白区に株式会社メルコ（現社名 株式会社バッファロー）を設立
昭和61年7月	不動産賃貸業を目的として、名古屋市天白区に有限会社バッファロー（現社名 株式会社メルコホールディングス）を設立
平成2年9月	株式会社メルコが名古屋市中区に100%子会社として株式会社バッファロー物流を設立
平成3年10月	株式会社メルコが日本証券業協会へ店頭登録 株式会社メルコが名古屋市南区に100%子会社として株式会社メルコインターナショナル（現社名 株式会社バッファローリース）を設立
平成4年6月	株式会社メルコが台湾連絡事務所を現地法人化し、100%子会社として巴比祿股?有限公司を設立
平成7年1月	株式会社メルコが名古屋証券取引所市場第二部に株式を上場
平成7年8月	株式会社メルコが東京証券取引所市場第二部に株式を上場
平成8年9月	株式会社メルコが東京証券取引所ならびに名古屋証券取引所市場第一部に株式を上場
平成8年10月	株式会社メルコが近畿システムサービス株式会社（現社名 シー・エフ・デー販売株式会社）に資本参加（出資比率50.3%）、子会社とする
平成10年1月	株式会社メルコがTechWorks, Inc.（現社名 BUFFALO TECHNOLOGY(USA), INC.）に資本参加（出資比率68.1%）、子会社とする
平成10年12月	株式会社メルコがTechWorks(UK)Limited（現社名 BUFFALO TECHNOLOGY UK LIMITED）に資本参加（出資比率100.0%）、子会社とする 株式会社メルコがTechWorks(Ireland)Limited（現社名 BUFFALO TECHNOLOGY IRELAND LIMITED）に資本参加（出資比率99.9%）、子会社とする
平成14年5月	株式会社メルコが名古屋市熱田区に100%子会社としてオリーブネット株式会社（現社名 株式会社バッファローダイレクト）を設立
平成15年5月	株式会社メルコホールディングスに商号変更 名古屋市中区に本店を移転
平成15年10月	株式会社メルコが株式会社バッファローに商号変更 株式交換により株式会社メルコホールディングスを純粋持株会社、株式会社バッファローを完全子会社とする持株会社体制に移行。株式会社メルコホールディングスが東京証券取引所ならびに名古屋証券取引所市場第一部に株式を上場 東京都千代田区に90%子会社として株式会社メルコオンラインエンターテインメント（現社名 株式会社リパティシブ）を設立
平成16年3月	シー・エフ・デー販売株式会社、巴比祿股?有限公司、BUFFALO TECHNOLOGY (USA), INC.、BUFFALO TECHNOLOGY UK LIMITED、BUFFALO TECHNOLOGY IRELAND LIMITEDの5社を、株式会社バッファローの子会社から株式会社メルコホールディングスの直接出資する子会社に異動
平成16年6月	株式会社バッファロー物流、株式会社バッファローリース、オリーブネット株式会社（現社名 株式会社バッファローダイレクト）の3社を、株式会社バッファローの子会社から株式会社メルコホールディングスの直接出資する子会社に異動
平成16年12月	名古屋市中区に100%子会社として株式会社メルコパーソナルサポートを設立 名古屋市南区に100%子会社として株式会社エム・ティー・エス（現社名 株式会社バッファロー・IT・ソリューションズ）を設立
平成19年4月	株式会社メルコホールディングスが株式会社アーベル（現社名 株式会社バッファローコクヨサプライ）に資本参加（出資比率57.9%）、子会社とする
平成19年5月	株式会社エム・ティー・エスが株式会社バッファロー・IT・ソリューションズに商号変更
平成19年8月	株式会社アーベルが株式会社バッファローコクヨサプライに、オリーブネット株式会社は株式会社バッファローダイレクトに、それぞれ商号変更
平成20年4月	オランダに100%子会社としてBuffalo EU B.V.を設立
平成21年3月	株式会社メルコホールディングス本社事務所を名古屋市南区へ移転
平成22年9月	株式会社メルコホールディングス本社を名古屋市中区へ移転
平成22年11月	北京に100%子会社として美祿可（北京）商?有限公司を設立

### 3【事業の内容】

当社グループは、当社及び連結子会社15社により構成されており、デジタル家電及びコンピュータの周辺機器の開発・製造・販売、インターネット関連サービス及びそれに付帯する事業などを行っております。当社グループの事業系統図及び主要な会社名は、次のとおりであります。



#### その他の事業

物流会社 (連結子会社) 株式会社バッファロー物流	インターネット関連サポート及びサービス (連結子会社) 株式会社バッファロー・IT・ソリューションズ
ハードウェア関連機器のレンタル (連結子会社) 株式会社バッファローリース	インターネット関連サービス (連結子会社) 株式会社リパティシブ
販売会社 (連結子会社) 株式会社バッファローダイレクト	人材派遣会社 (連結子会社) 株式会社メルコパーソナルサポート

## 4【関係会社の状況】

## (1) 連結子会社

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
株式会社 バッファロー (注) 2、3	名古屋市 中区	320	デジタル家電及びコン ピュータ周辺機器の 製造・販売	100.0	経営指導料を受けとって いる。 役員の兼任あり。 設備の貸借あり。 金銭の貸借あり。
巴比禄股?有限公司	台湾 台北縣	10,000 千台湾ドル	ブロードバンド関連機 器及びコンピュータ周 辺機器の製造・販売	100.0	経営指導料を受けとって いる。 役員の兼任あり。 設備の貸借あり。
美禄可(北京)商? 有限公司(注) 2	北京市 海淀区	270	ブロードバンド関連機 器及びコンピュータ周 辺機器の販売	100.0	経営指導料を受けとって いる。 役員の兼任あり。
シー・エフ・デー 販売株式会社 (注) 2、3	名古屋市 中区	133	ブロードバンド関連機 器及びコンピュータ周 辺機器の販売	100.0	経営指導料を受けとって いる。 役員の兼任あり。 設備の貸借あり。 金銭の貸借あり。
BUFFALO TECHNOLOGY(USA), INC.	米国 テキサス州	4 米ドル	ブロードバンド関連機 器及びコンピュータ周 辺機器の製造・販売	100.0	経営指導料を受けとって いる。 役員の兼任あり。 金銭の貸借あり。
BUFFALO TECHNOLOGY UK LIMITED(注) 2	英国 バークシャー	11,628 千米ドル	ブロードバンド関連機 器及びコンピュータ周 辺機器の製造・販売	100.0	経営指導料を受けとって いる。 役員の兼任あり。 金銭の貸借あり。
BUFFALO EU B.V.	オランダ ホーフドルプ	600 千ユーロ	欧州地域統括拠点	100.0	役員の兼任あり。 金銭の貸借あり。
株式会社 バッファロー物流	名古屋市 熱田区	70	グループ会社の製品の 梱包、出荷業務	100.0	経営指導料を受けとって いる。 役員の兼任あり。 設備の貸借あり。 金銭の貸借あり。
株式会社 バッファロー・IT・ ソリューションズ	東京都 中央区	10	ブロードバンド関連の サポート及びサービス	100.0	経営指導料を受けとって いる。 設備の貸借あり。
株式会社 バッファローコクヨ サプライ(注) 2	名古屋市 中区	300	コンピュータ周辺機器 及びアクセサリ・サブ ライ品の製造、販売	57.9	役員の兼任あり。 金銭の貸借あり。 設備の貸借あり。
その他5社					

(注) 1. 上記の子会社は、有価証券届出書又は有価証券報告書を提出していません。

2. 特定子会社に該当しております。

3. 株式会社バッファロー及びシー・エフ・デー販売株式会社については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

株式会社バッファロー	(1)売上高	105,382百万円
	(2)経常利益	9,845百万円
	(3)当期純利益	5,980百万円
	(4)純資産額	6,478百万円
	(5)総資産額	32,563百万円
シー・エフ・デー販売株式会社	(1)売上高	14,303百万円
	(2)経常利益	303百万円
	(3)当期純利益	149百万円
	(4)純資産額	343百万円
	(5)総資産額	2,279百万円

## (2) 持分法適用の関連会社

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
1社					

## (3) その他の関係会社

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の被所有割合 (%)	関係内容
株式会社マクス	東京都港区	98百万円	資産管理	40.2	役員の兼任あり。

## 5【従業員の状況】

## (1) 連結会社の状況

平成23年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)	
日本	702	[399]
アジア	73	[24]
欧州	49	[3]
米国	49	[1]
合計	873	[427]

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含んでおります。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材派遣会社からの派遣社員を含んでおります。)は、[ ]内に年間の平均人員を外数で記載しております。

## (2) 提出会社の状況

平成23年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
83 [1]	38.8	8.7	6,169

セグメントの名称	従業員数(人)	
日本	83	[1]
合計	83	[1]

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含んでおります。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材派遣会社からの派遣社員を含んでおります。)は、[ ]内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2. 平均勤続年数は、当社グループ入社日から通算しております。

3. 平均年間給与は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。

## (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、期初より好調な外需や政府の景気刺激策による企業業績の改善などにより、緩やかな回復基調で推移しました。しかし、夏場以降の円高進行や政策効果の息切れなどにより、年度末にかけて景気の足踏み状態が続きました。さらに期末3月の東日本大震災による甚大な被害と原発事故も発生し、わが国経済はこれまで経験したことの無い厳しい局面を迎え、景気の先行きに深刻な影響が懸念される状況となりました。

当社グループに係るデジタル家電業界は、スマートフォンの増加や家電エコポイント制度が牽引した地上デジタルテレビの販売台数増加により、その周辺機器市場も拡大しました。一方、パソコン関連業界は、個人向け需要は回復傾向にあったものの、法人向け需要の回復には至らず、これに関連する周辺機器市場も厳しい状況が続きました。

当社グループは、このような市場環境の中で、海外事業の強化に注力するとともに、国内においては販売市場でのシェア確保に努力し、パソコン周辺機器市場における存在感を維持しました。また、デジタル家電市場においても2009年7月に変更したコーポレートステートメント「デジタルライフ、もっと快適に」を具体化するため、デジタル家電の周辺機器市場開拓にいち早く取り組み、ユーザーズを具現化する新製品の発売や家電売場における活用提案などを積極的に行い、新たな市場形成に努めました。これにより、デジタル家電周辺機器事業を新たな成長事業として位置付けることができました。その結果、売上高は1,237億49百万円と前期を5.8%上回る結果となりました。また、営業利益においては、差別化製品の投入、経営の効率化、原価低減などの努力により、前期を大幅に上回りました。しかし、海外事業の拡大、グローバルな人材の育成など将来への布石についてはまだまだ努力不足で、引き続き大きな経営課題として残りました。

これらにより、当連結会計年度の売上高は1,237億49百万円（前期比5.8%増）、営業利益107億43百万円（同42.4%増）、経常利益109億54百万円（同43.2%増）、当期純利益62億77百万円（同25.8%増）となりました。

主要な製品別の状況は以下のとおりです。

メモリ製品では、パソコンのメモリ初期搭載容量の大容量化によるメモリモジュールの追加購入需要の低迷により、メモリモジュールの販売台数は前期比で27.6%減少し、売上高は88億35百万円と前期比13.0%下回る結果となりました。

USBメモリに代表されるフラッシュメモリ製品では、販売シェアは維持したものの、需要の一巡による市場規模の縮小により、販売台数が前期比で13.9%減少し、売上高は77億86百万円と前期比19.7%下回る結果となりました。

ストレージ製品では、外付ハードディスクに録画のできる地上デジタルテレビのラインアップ増加と販売台数伸張により、外付ハードディスクの市場が拡大しました。また、テレビ周りの配線をすっきりさせたいというニーズに応え、テレビの背面に取り付けが出来、コンセントの不要な録画用ポータブルハードディスクを発売しました。これらにより、販売台数は前期比で12.0%増加しましたが、デフレによる単価下落により、売上高は前期比で0.8%微減の423億13百万円となりました。

NAS（ネットワークハードディスク）製品では、iPad®やAndroid搭載スマートフォンなどの端末から自宅のNASに保存したデータを外出先から自在に扱え、プライベートクラウドストレージとして使用できる新しい活用提案を行いました。これらにより、販売台数は前期比で17.1%増加しましたが、法人需要の低迷により、売上高は前期比で0.8%微減の127億25百万円となりました。

ネットワーク製品では、地上デジタルテレビやiPad®などのデジタル家電機器での無線LANの需要が増大しました。また、NTTドコモFOMA®ハイスピード回線に対応し、どこでも手軽に楽しめるポータブルWi-Fiルーターという無線LANの新たな需要を喚起する新製品を投入しました。これらにより、ブロードバンド製品の販売台数は前期比17.1%増加し、売上高は前期比28.0%増加の274億14百万円となりました。利益面では高速規格IEEE802.11nのハイパワー差別化製品の販売増加と原価低減努力が貢献しました。

デジタルホーム製品では、2011年7月の地デジ化移行を控え、アナログTV用地上デジタルチューナーや1台で視聴・録画が可能なパーソナル地デジレコーダーの販売台数が増加しました。これらにより、販売台数は前期比163.7%増加し、売上高は前期比73.2%増の65億42百万円となりました。

サプライ・アクセサリ製品では、女性ユーザー向けのデザイン性向上や特殊技術を採用した100%気泡が入らない液晶保護フィルムなどスマートフォン関連製品のラインアップを強化しました。これらにより、販売台数は前期比23.0%増加し、売上高は前期比7.6%増の101億61百万円となりました。また、デジタルライフ市場の拡大を目指し、エンターテインメント向けの新ブランド「iBuffalo（アイバッファロー）」の導入を行いました。

iPad®はApple Inc.の商標です。



[ 製品分類別連結売上高 ]

	平成22年3月期		平成23年3月期		前期比増減(%)
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	
メモリ	10,151	8.7	8,835	7.1	13.0
フラッシュメモリ	9,699	8.3	7,786	6.3	19.7
ストレージ	42,646	36.5	42,313	34.2	0.8
N A S	12,834	11.0	12,725	10.3	0.8
ネットワーク	21,425	18.3	27,414	22.2	28.0
デジタルホーム	3,778	3.2	6,542	5.3	73.2
サプライ・アクセサリ	9,447	8.1	10,161	8.2	7.6
D O S / V パーツ	3,274	2.8	4,877	3.9	49.0
サービス	2,397	2.0	2,215	1.8	7.6
その他	1,255	1.1	877	0.7	30.1
合計	116,911	100.0	123,749	100.0	5.8

セグメントの業績は次のとおりであります。

日本

国内では販売市場でのシェア確保を維持し、スマートフォンやデジタル家電の増加により拡大したデジタル家電の周辺機器市場により売上が増加しました。営業利益については、差別化製品の投入、経営の効率化、原価低減などの努力により、大幅に増加しました。売上高は1,219億89百万円(前期比8.2%増)となり、営業利益は107億70百万円(前期比49.6%増)となりました。

アジア

売上高は前年に比べ減少しましたが、原価低減と経費削減が奏功し利益面での改善が進みました。売上高は90億37百万円(前期比16.0%減)、営業利益は1億58百万円(前期比203.8%増)となりました。

欧州

欧州の景気低迷により、売上高は64億79百万円(前期比26.0%減)、営業損失38百万円(前期は営業利益67百万円)となりました。

北米

不採算事業であったメモリ事業から撤退したことで売上高は前期に比べ減少しました。売上高は29億13百万円(前期比36.5%減)、営業利益は22百万円(前期比85.7%減)となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、営業活動により107億19百万円の増加、投資活動により103億40百万円の減少、財務活動により8億89百万円の減少となり、現金及び現金同等物にかかる換算差額50百万円を減算した結果、前連結会計年度と比べ、5億62百万円減少し、114億15百万円となりました。

当連結会計年度末における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は107億19百万円(前連結会計年度は121億33百万円の増加)となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益107億18百万円、減価償却費13億9百万円、売上債権の増加による資金減少10億98百万円、未払金の増加による資金増加11億26百万円、法人税等の支払額16億46百万円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果減少した資金は103億40百万円(前連結会計年度は122億62百万円の減少)となりました。これは主に、定期預金の預入による支出241億70百万円、定期預金の払戻による収入250億60百万円、有価証券及び投資有価証券の取得による支出98億39百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果減少した資金は8億89百万円(前連結会計年度は8億1百万円の減少)となりました。これは主に、配当金の支払によるものです。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
	生産高(百万円)	前期比(%)
日本	89,944	-
アジア	32,729	-
合計	122,674	-

- (注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
3. 改正後の「セグメント情報」の適用初年度であり、上記セグメントの区分による前連結会計年度の金額のデータを入手することが困難であるため、前期比は記載しておりません。

### (2) 受注状況

当社グループは見込み生産を行っているため、該当事項はありません。

### (3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
	販売高(百万円)	前期比(%)
日本	113,494	110.8
アジア	926	69.4
欧州	6,430	75.2
米国	2,898	63.4
合計	123,749	105.8

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。  
2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
ヤマダ電機株式会社	16,755	14.3	17,514	14.2
ダイワボウ情報システム株式会社	13,814	11.8	13,225	10.7

- (注) 本表の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 3【対処すべき課題】

次期の日本経済の見通しは、東日本大震災の影響による企業の輸出競争力の低下や空洞化のリスクがあり、さらには企業や消費者の心理悪化が設備投資や消費の抑制につながりかねない極めて厳しい状況が続くものと思われます。これらにより、当社グループにとっても厳しい局面が予測されます。

しかし、一方でスマートフォンやデジタル家電の普及はまだ始まったばかりであり、これに関連するデジタル家電の周辺機器市場も今後引き続き成長する可能性を秘めています。

当社グループは、総合周辺機器メーカーとしてのこれまでの実績を活かし、人々の豊かなデジタルライフを実現する多彩な製品やソリューションを積極的に展開し、デジタル家電の周辺機器市場の成長促進を図ります。

また海外進出については、あらためてグローバル元年と位置付け、中国販社設立による中国での販売強化や中南米での販売開始など、当社グループの最重要課題である海外事業の拡大を一層強化していきます。また、それを実現するグローバルな人材育成のための教育投資やもう一つの最重要課題である当社グループの次世代を担う新規事業開発についても積極的な投資を行います。

### 4【事業等のリスク】

当社グループが認識している事業等のリスクのうち、主要なものは以下のとおりです。これらはすべてのリスクを網羅しているわけではなく、この他にも当社グループの業績に影響を与える予見しがたいリスクが存在する可能性があります。

#### 経済環境に関するリスク

##### 経済動向

当社グループの製品・サービスは、その販売を行っている国または地域の経済状況の影響を受けます。当社グループの製品・サービスの販売は、日本国内にその多くを依存しているため国内経済の動向の影響を受けます。また、パソコン周辺機器は世界共通の部品を多く使うため、世界の経済状況の影響を受けます。

##### 為替の変動

当社グループは為替の変動リスクを軽減するため様々な手段を講じております。しかし為替相場の変動によって事業、業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

#### 当社グループの事業活動に関するリスク

##### 技術革新

当社グループを取り巻く事業環境は非常に変化が激しく、大きな技術革新はその市場構造を変化させる可能性があります。当社グループは世界中で研究されている様々な要素技術を取込み、エンドユーザが実際に使用する最終製品を開発しております。幸い当社グループは業界のリーディングカンパニーとして、これまで世界に先駆けて新技術を採用した製品を開発することができてきました。しかし、今後の外部環境の急激な変化により、この主導的立場を失うと、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

##### 在庫補償

当社グループの属するデジタル家電及びパソコン周辺機器業界では、技術革新が激しく現行の製品に比べて著しくコストパフォーマンスの高い製品が新たに発売されることが頻繁にあります。その際の現行製品の売れ行きを良好にコントロールする目的で価格改定（値下げ）を実施し、取引先の在庫に対して、当該値下げ金額を補填「在庫補償」することがあります。当社グループは、流通在庫量の把握コントロールに努め、競合他社に比し売上高に対する「在庫補償」の金額の比率を小さくするよう努めています。しかし、製品の販売価格を大幅かつ広範囲にわたって改定（値下げ）せざるを得ない場合は、この在庫補償が、当社グループ業績に影響を与える可能性があります。

##### 競争の激化

パソコンは、その互換性を保つため世界標準の規格で作られており、競合となる周辺機器メーカーは世界中に存在します。当社グループは技術開発、製品の機能・性能、コスト競争力、デザインその他多くの点で世界的な競争力を保つ必要があります。しかし世界的な大手企業や小規模でも高度に専門化した企業など様々な企業の参入により当社グループの販売シェアや収益力に影響を与える可能性があります。

#### 製品・サービスの欠陥

当社グループの製品・サービスに欠陥が生じる可能性は否定できません。製品・サービスに欠陥が生じた場合、社会的信用の失墜やブランド価値の低下、またその対応や補償のための費用負担が当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

#### その他のリスク

##### 法的手続き

当社グループは、特許権その他の知的財産権侵害訴訟その他の主張に基づく訴訟または法的手続きを申し立てられることがあります。訴訟または法的手続きの申し立ての主張が正当であるか否かにかかわらず、防御のために莫大な費用および経営資源が必要となる可能性があります。

また、第三者による特許権その他の知的財産権侵害の申し立てが認められ、当該技術または代替技術のライセンスが取得できない場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

##### 環境に関する規制

当社グループは、様々な顧客から環境に配慮した製品やサービスの要求を受け、また、環境関連法令の適用を受けています。今後、環境に対するニーズや規制がより厳しくなり、これらに対応するための費用や補償が多額に発生すると、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

##### 情報の流出

当社グループは、業務上多数の個人情報や機密情報を有しており、これらの情報の管理に万全を期しております。しかし予期せぬ事態によりこれらの情報が流出する可能性も否定できず、このような事態が生じた場合、社会的信用の失墜やブランド価値の低下、またその対応のための多額の費用負担が当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

##### 災害などによる影響

当社グループの主な事業所や協力工場の多くは日本国内にあるほか、販売や製造、部品調達の拠点やその調達先などが北米、欧州、アジアなどに展開しています。地震をはじめとする自然災害やテロ行為あるいはコンピュータウイルスによる攻撃によって当社及び当社の業務に関連する企業の拠点が損害を被り、生産や出荷の遅延・停止の可能性があります。また、それらの拠点の修復や代替のために多額の費用が発生する可能性があります。

## 5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6【研究開発活動】

当社グループは、お客様が求めている製品をタイムリーに提供すること、また今後求められると思われる製品をお客様の視点から提案することを開発の主眼に置いております。

現在の研究開発は、主に当社の主要な子会社である株式会社バッファローの技術部及び各事業部の開発グループで行っております。研究開発スタッフは、グループ全体で137名にのぼり、これは総従業員数の約16%に当たっております。

当連結会計年度の主な製品別の活動内容は、次のとおりであります。

### <メモリ>

データの書き込みを行う際にメモリを一時保管場所(キャッシュ)として利用することで、データの書き込み速度を高速化する「ターボPC」を開発しました。

USBメモリでは、法人ユーザのニーズに応える、セキュリティモデルの集中管理ソフトウェア(SecureLock Manager)に特定パソコン以外での本製品の利用の制限や、使用期限を設定する「コピーガード機能」を新たな機能として追加、管理機能を強化しました。

### <NAS>

スマートフォンやスレートPCで外出先から自宅のNAS(ネットワークハードディスク)に簡単にアクセスできるアプリケーション「WebAccess i」、「WebAccess A」を開発しました。いつでもどこでもスマートフォンやスレートPCで自宅のNASに保存した映像・写真・音楽をプライベートクラウドストレージとして扱えるような環境を実現しました。

### <ネットワーク>

NTTドコモFOMA®ハイスピード回線に対応したポータブルWi-Fiルータを開発。いつでも好きな場所でスレートPCやパソコン、ゲーム機など無線LAN対応機器でインターネットできる環境を実現しました。

また、Android搭載のスマートフォンと当社無線LAN製品「AirStation」をボタンを押すだけのワンタッチでWi-Fiにつなぐためのアプリケーション「AOSS for Android」を開発しました。

### <その他>

1台で視聴・録画が可能なパーソナル地デジレコーダーを開発。アナログテレビ用のコンポジット端子に加えデジタルテレビ接続用のHDMI端子も搭載し、将来のテレビの買い替え後の利用も可能となりました。

スマートフォンやスレートPC用に特殊技術を採用した100%気泡が入らない液晶保護フィルム(特許出願中)を開発。フィルムを貼る際の気泡に苦労した方も安心して、簡単にフィルムを貼ることができます。

なお、研究開発費の総額は、30億7百万円となっております。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたりまして、当社経営陣は決算日における資産・負債の報告数値および偶発資産・負債の開示、ならびに報告期間における収入・費用に影響を与える見積りを行っております。また見積りに関しまして、提出日現在で得られた情報に基づき判断をしておりますが、不確実な要素も含んでおり、実際の結果はこれらの見積りと異なる場合があります。

### (2) 財政状態の分析

#### [ 流動資産 ]

当連結会計年度における流動資産の残高は、656億16百万円となり、前連結会計年度に比べ79億99百万円増加しました。これは主に、現金及び預金の減少14億51百万円、有価証券の増加91億円によるものです。資金運用の一環として、安全且つ満期までの期間が短期の有価証券を取得しております。

#### [ 固定資産 ]

当連結会計年度における固定資産の残高は、59億84百万円となり、前連結会計年度に比べ6億31百万円増加しました。これは主に、投資有価証券の増加6億36百万円によるものです。増加の主要因は、運用及び税関担保に供する目的で、国債を購入したためです。

#### [ 流動負債 ]

当連結会計年度における流動負債の残高は、295億86百万円となり前連結会計年度に比べ29億39百万円増加しました。これは主に、支払手形及び買掛金の減少10億61百万円、未払法人税等の増加18億19百万円、未払金の増加9億99百万円によるものです。未払金の増加は主に、資金効率を高める目的で、関税等の納期限延長制度の利用を開始したことによります。

#### [ 固定負債 ]

当連結会計年度における固定負債の残高は、34億7百万円となり前連結会計年度に比べ3億25百万円増加しました。増加の要因は、税効果会計の手続の結果による繰延税金負債の増加1億79百万円と退職給付引当金の増加1億35百万円によるものです。

#### [ 純資産 ]

当連結会計年度における純資産の残高は、386億6百万円となり、前連結会計年度に比べ53億66百万円増加しました。これは主に、当期純利益の獲得62億77百万円と配当金の支払8億88百万円によるものです。

#### [ キャッシュ・フロー ]

「第2 [ 事業の状況 ] 1 [ 業績等の概況 ] (2) キャッシュ・フロー」に記載のとおりであります。

### (3) 経営成績の分析

当連結会計年度の売上高は1,237億49百万円（前連結会計年度比5.8%増）、売上総利益272億31百万円（同16.1%増）、販売管理費及び一般管理費164億87百万円（同3.7%増）、営業利益107億43百万円（同42.4%増）、経常利益109億54百万円（同43.2%増）、当期純利益62億77百万円（同25.8%増）となりました。

#### [ 売上高 ]

当連結会計年度の売上高は、1,237億49百万円となりました。メモリ製品では、パソコンの初期搭載容量の大容量化による追加購入需要の低迷と北米市場からの撤退により、売上高は前連結会計年度16.3%減の166億21百万円となりました。また、ストレージ製品では、主力のハードディスク製品において、従来のパソコン用途に加え、地上デジタルテレビの録画用途など新たな需要が立ち上がりましたが、販売価格の低下を余儀なくされ、売上高は前連結会計年度0.8%減の550億38百万円となりました。ネットワーク製品は、ポータブルWi-Fiルーターという無線LANの新たな需要を喚起する新製品が寄与し、売上高は前連結会計年度28.0%増加の274億14百万円となりました。その他の製品は、アナログTV用地上デジタルチューナーの販売増加により、前連結会計年度22.4%増加の246億72百万円となりました。

#### [ 売上総利益・売上原価 ]

当連結会計年度の売上総利益は、前連結会計年度比16.1%増の272億31百万円となりました。これは、利益率の高い高付加価値製品の投入により他との差別化が進んだこと、また徹底した原価低減努力などが奏効したことなどによるものです。

#### [ 販売費及び一般管理費 ]

当連結会計年度の販売費及び一般管理費は、研究開発への積極投資により前連結会計年度比3.7%増の164億87百万円となりました。

#### [ 営業利益 ]

当連結会計年度の営業利益は、国内における、徹底した経営の効率化、原価低減と経費削減などの努力により、前連結会計年度比42.4%増の107億43百万円となりました。

#### [ 営業外損益・経常利益 ]

当連結会計年度の経常利益は、前連結会計年度比43.2%増の109億54百万円となりました。営業外の収益及び費用による増減は殆どありませんでした。

#### [ 特別利益・損失 ]

当連結会計年度の特別利益は2億40百万円、特別損失は4億76百万円となりました。特別利益の主な要因は、訴訟損失引当金戻入額2億16百万円、特別損失の主な要因は、事業再構築引当金戻入3億00百万円、過年度使用料88百万円です。

#### [ 当期純利益 ]

当連結会計年度の当期純利益は前連結会計年度比25.8%増の62億77百万円となりました。



## 主な経営指標

	平成20年3月期	平成21年3月期	平成22年3月期	平成23年3月期
流動比率 (%)	203.6	215.9	216.2	221.8
固定比率 (%)	19.4	20.0	16.1	15.5
自己資本比率 (%)	50.7	54.2	51.8	53.0
売上高営業利益率 (%)	3.7	1.8	6.5	8.7
売上高経常利益率 (%)	3.9	1.9	6.5	8.9
売上高当期純利益率 (%)	2.6	0.6	4.3	5.1
自己資本当期純利益率 (ROE) (%)	12.9	2.5	16.4	17.8
総資本経常利益率 (ROA) (%)	9.0	4.1	13.3	16.3
従業員1人当たり売上高 (百万円)	142	134	134	141
従業員1人当たり当期純利益 (百万円)	3	0	5	7

## (4) 経営成績に重大な影響を与える要因について

当社グループを取り巻く事業環境は非常に変化が激しく、技術革新の度にその市場構造は容易に変化しえます。特に無線LANを中心とした通信技術は世界中で日々研究されています。通信はインフラとしての性格からその互換性を担保するため標準規格が制定されますが、その技術進歩のスピードは速く2年ないし3年ごとに新しい規格が生まれてきます。また、無線LANの標準規格以外にも、暗号化の技術や独自の通信高速化の技術も掛け合わせると目まぐるしい技術の進化があります。

当社グループはこれらの要素技術を取込みエンドユーザが実際に使用する最終製品を開発しております。幸い日本は無線LANの先進国で当社グループはその主導的立場から、これまで世界に先駆けて新技術を採用した製品を開発することができてきました。しかし、今後の新技術の研究を怠ったり新製品の開発や市場への投入が遅れるとこの主導的立場を失うことになりかねません。

また、近年動画を利用するユーザが増加しておりますが、その背景には動画の圧縮技術の進化や画像配信あるいは管理方法の進化があります。これらの技術研究の重要性もさることながら、優秀な技術を持った他社との資本参加も視野に入れた提携も検討する必要があります。これらの技術や会社の選定に当たり、その見積もりを誤ればその損失は直接の投資額のみでなく映像関連の市場での当社グループの存在価値を減少させる大きな損失となります。

当社グループの主力製品の一つであるメモリ製品では、主要部材としてDRAMやフラッシュメモリといった相場性の高い部品を使用しています。調達量の統制や社内外の在庫管理の徹底などにより業績への影響は近年少なくなりつつありますが、これらの部品価格が大きく変化した場合には、当社の業績に影響を与える可能性があります。

(5) 戦略的現状と見通し

当社グループは、これまでパソコンの周辺機器からインターネットの活用機器へ事業ドメインを拡大し成長してきました。今後、高度情報化社会に向けてさまざまな情報がデジタル化され、ネットワークを通じての利用が増加していきます。当社グループはこの大きな社会変化に対し、自らの事業ドメインを合わせ事業の拡大を目指します。

当連結会計年度では、デジタルホーム関連製品の普及に加え、将来の成長を期し、海外市場の拡大、新規事業の育成という3つの成長戦略を推し進めました。

海外市場では、欧州の信用不安に端を発した景気の冷え込みによる価格競争の激化や、不採算であった北米メモリ事業の撤退に加え、円高が重なり、その事業規模は前連結会計年度の192億円から当連結会計年度の158億円へと縮小しました。また、新規事業の育成に関しても、まだまだ道半ばであり、大きな経営課題として残りました。

当社グループの中心的な成長戦略であるデジタルホーム市場では、スマートフォンやデジタル家電、ホームネットワークの普及に伴い、その周辺機器市場も拡大しました。また、デジタルホームの活用もスマートフォンの普及により広がりを見せています。たとえば、スマートフォンから外出先で自宅のネットワークハードディスクに保存したデータ（写真・音楽・映像など）をプライベートクラウドストレージとして自在に扱うことができます。

また、モバイルWi-Fiルータの使用により、外出先でもスレートPCなどの無線LAN対応機器をインターネットに接続できるようになります。

地上デジタルテレビの録画においても、外付ハードディスク対応モデルが増加し、録画時間を外付ハードディスクの追加で手軽に拡張できることが一般化してきました。

このようにデジタル家電、ホームネットワーク、周辺機器が融合したデジタルホームは今後更に拡大し、もっと多彩で快適な生活環境を生み出していきます。

メルコグループは、総合周辺機器メーカーとしてのこれまでの実績を活かし、人々の豊かなデジタルライフを実現する多彩な製品やソリューションを積極的に展開し、デジタル家電の周辺機器市場の成長促進を図ります。

また海外においては、グローバル元年と位置付け、中国販売強化による中国販売の強化や中南米での販売開始など、メルコグループの最重要課題である海外事業の拡大を一層強化していきます。また、それを実現するグローバルな人材育成の教育投資、新規事業開拓などの投資を積極的に行い、「デジタルライフ、もっと快適に」をモットーに、より快適なデジタルライフの実現に注力してまいります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループでは、急速な技術革新や販売競争の激化に対処するため、新製品用生産器具の充実を中心に6億10百万円の設備投資を実施しました。また、ソフトウェアを中心に6億95百万円の設備投資を実施しました。  
なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備の状況は、次のとおりであります。

##### (1) 提出会社

平成23年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内 容	帳簿価額(百万円)					従業 員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	工具、器具 及び備品	土地 (面積㎡)	合計	
本社 (名古屋市中区)	日本	統括業務 施設	92	-	22	-	115	70 [1]

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等を含めておりません。  
2. 従業員数の[ ]は臨時従業員数を外書しております。  
3. 本社の建物は賃借しております。当連結会計年度における賃借料は、57百万円であります。

##### (2) 国内子会社

平成23年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業 員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	工具、器 具及び備 品	土地 (面積㎡)	合計	
株式会社 バッファロー	本社 (名古屋市中区)	日本	販売管理 研究開発 品質管理 生産管理施設	32	-	126	-	159	232 [46]
株式会社 バッファロー物流	本社 (名古屋市中区)	日本	物流倉庫	22	2	6	-	30	31 [127]

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等を含めておりません。  
2. 従業員数の[ ]は臨時従業員数を外書しております。

##### (3) 在外子会社

平成23年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業 員数 (人)
				建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	工具、器 具及び 備品	土地 (面積㎡)	合計	
巴比祿股?有限公司	本社 (台湾台北縣)	アジア	生産設備	21	2	0	69 (101.10)	94	73 [24]
BUFFALO TECHNOLOGY(USA), INC.	本社 (米国テキサス州)	米国	販売管理施設	3	4	9	-	18	49 [1]

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等を含めておりません。  
2. 従業員数の[ ]は臨時従業員数を外書しております。

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、景気予測、業界動向、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。設備計画は原則的に連結会社各社が個別に策定しておりますが、計画策定に当たってはグループ会議において提出会社を中心に調整を図っております。

なお、当連結会計年度末における重要な設備の新設、改修の計画は次のとおりであります。

#### (1) 重要な設備の新設

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定年月		完成後の増加 能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
株式会社 バッファロー他	名古屋市 中区	日本	工具、器具 及び備品等	632	-	自己資金	平成23年 4月	平成24年 3月	新製品生産に 対応するため であります。

- (注) 1. 経済的な設備の更新のための除売却を除き、重要な設備の除売却の計画はありません。  
2. 上記の金額には、消費税等を含めておりません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	97,000,000
計	97,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成23年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成23年6月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	22,237,873	22,237,873	東京証券取引所 (市場第一部) 名古屋証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	22,237,873	22,237,873	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

記載事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成21年3月23日 (注)	887,900	22,237,873	-	1,000	-	250

(注) 自己株式の消却による減少であります。

#### (6)【所有者別状況】

平成23年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株 式の状況 (株)	
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	37	28	80	138	1	8,614	8,898	-
所有株式数 (単元)	-	43,489	1,495	96,262	31,321	1	49,344	221,912	46,673
所有株式数の 割合(%)	-	19.60	0.67	43.38	14.11	0.00	22.24	100.00	-

(注) 1. 自己株式23,381株は「個人その他」に233単元及び「単元未満株式の状況」に81株を含めて記載しております。

2. 上記「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、5単元含まれております。

## (7) 【大株主の状況】

平成23年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社マクス	東京都港区赤坂2丁目17-22	8,919	40.11
牧 誠	東京都千代田区	1,046	4.70
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	999	4.49
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	690	3.10
全国共済農業協同組合連合会 (常任代理人 日本マスタートラスト信 託銀行株式会社)	(東京都港区浜松町2丁目11-3)	577	2.59
株式会社名古屋銀行	名古屋市中区錦3丁目19-17	501	2.25
財団法人メルコ学術振興財団	名古屋市中区大須4丁目11-50	500	2.24
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	212	0.95
牧 寛之 (常任代理人 立花証券株式会社)	東京都中央区	200	0.89
牧 大介	東京都千代田区	200	0.89
計	-	13,848	62.27

- (注) 1. 上記株主の所有株式数には、信託業務又は株式保管業務に係る株式数が含まれている場合があります。  
2. 株式会社マクスは、平成23年3月8日付で合同会社マクスから社名変更しております。  
3. 前事業年度末において主要株主であったマクスホールディングビービーは、当事業年度末現在では主要株主ではなくなりました。

## (8) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 23,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 22,167,900	221,679	-
単元未満株式	普通株式 46,673	-	-
発行済株式総数	22,237,873	-	-
総株主の議決権	-	221,679	-

- (注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、500株(議決権の数5個)含まれております。

【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
株式会社メルコホールディングス	名古屋市中区大須三丁目30番20号	23,300	-	23,300	0.10
計	-	23,300	-	23,300	0.10

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないもの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	493	1,423,015
当期間における取得自己株式	10	25,770

(注) 当期間における取得自己株式には、平成23年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	23,381	-	23,391	-

(注) 当期間における保有自己株式には、平成23年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

### 3【配当政策】

当社は、株主重視の経営をこれまで以上に推し進め、企業価値の最大化に努める一方、株主各位への適正な利益還元と将来の事業展開のための内部留保とを調和させながら、利益配分を定めていくことを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としています。これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき当期は1株あたり60円の配当（うち中間配当20円）を実施することを決定しました。

内部留保資金の用途につきましては、中長期の視点に立ち、新事業の開発や競争力ならびに財務体質の強化等に活用してまいります。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことが出来る。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下の通りであります。

決議年月日	配当金の総額	1株当たりの配当額
平成22年10月25日 取締役会決議	444百万円	20円
平成23年6月28日 定時株主総会決議	888百万円	40円

期末配当金の内訳 普通配当 20円、特別配当20円

### 4【株価の推移】

#### （1）【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第21期	第22期	第23期	第24期	第25期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
最高（円）	4,180	3,070	2,530	2,399	3,330
最低（円）	2,650	1,320	814	1,071	2,050

（注）最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

#### （2）【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成22年10月	11月	12月	平成23年1月	2月	3月
最高（円）	3,035	2,796	2,979	3,190	3,330	3,155
最低（円）	2,613	2,534	2,752	2,718	3,015	2,050

（注）最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。



5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	-	牧 誠	昭和23年4月29日生	昭和50年5月 メルコ(個人経営)創業 昭和53年8月 ㈱メルコ(現 ㈱パッファロー)代 表取締役社長 昭和61年6月 (有)パッファロー(現 当社) 代表取締役社長(現任) 平成18年5月 ㈱パッファロー 取締役会長(現 任)	(注)3	1,046
専務取締役	-	斉木 邦明	昭和23年9月22日生	平成4年3月 ㈱メルコ(現 ㈱パッファロー)入 社 平成15年6月 当社 取締役 平成15年10月 当社 専務取締役(現任) 平成15年10月 巴比祿股?有限公司 代表取締役 (現任) 平成18年5月 ㈱パッファロー 代表取締役社長 (現任) 平成23年5月 ㈱パッファローコクヨサプライ代 表取締役社長(現任)	(注)3	7
取締役	事業統括本部長兼 海外事業本部長	山口 英利	昭和35年4月17日生	平成2年7月 ㈱メルコ(現 ㈱パッファロー)入 社 平成15年6月 当社 取締役 平成17年6月 当社 取締役事業統括本部長(現 任) 平成20年12月 シー・エフ・デー販売(株)代表取締 役社長(現任) 平成22年10月 ㈱パッファロー 専務取締役事業本 部長兼海外事業本部長(現任) 平成22年11月 美祿可(北京)商?有限公司代表取締 役(現任)	(注)3	4
取締役	管理本部長	松尾 民男	昭和29年1月14日生	平成13年2月 ㈱メルコ(現 ㈱パッファロー)入 社 平成17年5月 ㈱パッファロー 取締役(現任) 平成19年6月 当社 取締役管理本部長(現任)	(注)3	1
取締役	-	李 洋憲	昭和21年11月9日生	昭和48年4月 ソニー(株)入社 平成17年10月 ソニー(株)B&P事業本部ビジネス戦 略部門部門長 平成19年5月 当社 顧問 平成21年6月 当社 取締役(現任)	(注)3	-
取締役	-	津坂 巖	昭和32年5月28日生	平成4年10月 公認会計士津坂巖事務所 所長 (現任) 平成11年10月 ㈱パッファロー(現 当社) 監査 役 平成16年6月 当社 取締役(現任)	(注)3	5
取締役	-	牧 寛之	昭和55年11月15日生	平成15年3月 京都大学卒業 平成16年8月 Melco Asset Management Limited 代表取締役 平成18年11月 Melco Asset Management Pte. Ltd 代表取締役 平成19年10月 MAM PTE LTD 代表取締役(現任) 平成23年6月 当社 取締役(現任)	(注)3	200

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役	-	牧 博道	昭和25年6月10日生	昭和62年2月 ㈱メルコ(現 ㈱バッファロー) 入社 平成15年6月 当社 取締役 平成16年6月 当社 常務取締役 平成20年5月 ㈱バッファロー監査役(現任) 平成20年5月 シー・エフ・デー販売㈱監査役(現任) 平成20年5月 ㈱バッファロー・IT・ソリューションズ監査役(現任) 平成20年5月 巴比祿股?有限公司監査役(現任) 平成20年8月 ㈱バッファローコクヨサプライ監査役(現任) 平成21年6月 当社 常勤監査役(現任)	(注)4	50
監査役	-	西川 俊男	大正14年10月7日生	昭和51年2月 ユニー㈱ 代表取締役社長 平成2年2月 同社 代表取締役会長 平成5年5月 同社 取締役会長 平成8年6月 ㈱メルコ(現 ㈱バッファロー) 監査役 平成9年5月 ユニー㈱ 名誉会長 平成15年5月 同社 特別顧問(現任) 平成15年6月 当社 監査役(現任)	(注)4	1
監査役	-	川島 讓	昭和11年1月12日生	昭和58年10月 ㈱ダイヤモンド社 代表取締役社長 平成5年3月 同社 代表取締役会長 平成5年6月 ㈱プレジデント社 代表取締役 平成6年2月 ㈱ダイヤモンド社国際経営研究所 代表取締役会長 平成6年6月 ㈱メルコ(現 ㈱バッファロー) 監査役 平成8年2月 ㈱ブイネット・ジャパン 代表取締役会長 平成12年12月 ㈱ティーイーエヌ 代表取締役社長(現任) 平成15年6月 当社 監査役(現任) 平成23年4月 ㈱ASK PLANNING CENTER 監査役(現任) 平成23年5月 日中FORUM㈱ 監査役(現任) 平成23年5月 ㈱ベガソスエレクトラ 監査役(現任) 平成23年5月 ハートランド㈱ 監査役(現任) 平成23年5月 ㈱モチガセ 監査役(現任)	(注)4	-
監査役	-	隅 朝恒	昭和9年12月16日生	昭和58年6月 日本合成ゴム㈱(現 JSR㈱) 取締役 昭和62年6月 日合商事㈱(現 JSRトレーディング㈱) 代表取締役社長 平成5年6月 日本合成ゴム㈱(現 JSR㈱) 常勤監査役 平成9年6月 ㈱メルコ(現 ㈱バッファロー) 常勤監査役 平成10年7月 同社 顧問 平成15年10月 当社 顧問 平成16年6月 当社 監査役(現任)	(注)4	0
計						1,314

(注) 1. 監査役西川 俊男、川島 讓及び隅 朝恒は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

2. 取締役牧 寛之は、代表取締役社長牧 誠の長男であります。

3. 平成23年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から1年間

4. 平成20年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

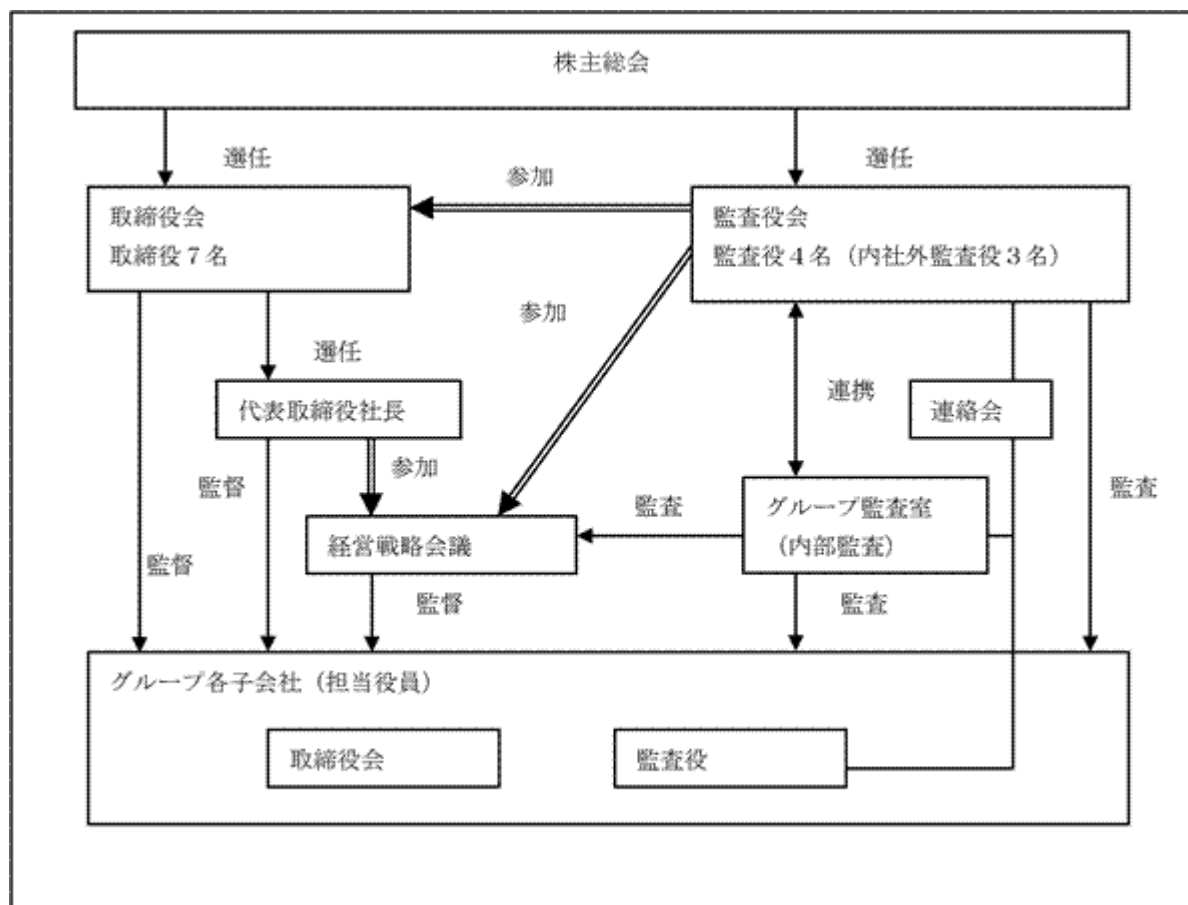
### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 企業統治の体制

##### イ．企業統治の体制の概要

当社グループのコーポレート・ガバナンスの基本的な考えは、すべての役員、従業員は企業活動のあらゆる場面において、法令その他の社会規範を遵守し、「Fair & Open」を全従業員の行動規範としてまいりました。当社グループは株主、取引先、従業員などすべてのステークホルダーとの関係を重視し、社会から必要とされる企業グループとして、持続的な発展を目指しております。そのため、コーポレート・ガバナンスを強化し充実することは、的確な意思決定と迅速な業務遂行、また、透明性の高い企業体質を醸成していくためにも重要な経営課題であると認識しております。

当社グループは変化の激しい業界にあるため、ことさら迅速な判断と行動力が要求されます。そのため取締役会の経営判断と行動の結果責任を明確化する目的で取締役の任期を1年としております。取締役会は取締役7名（平成23年6月28日現在）、監査役会は、社外監査役3名を含む4名（平成23年6月28日現在）で構成されております。



#### ロ．企業統治の体制を採用する理由

当社がコーポレート・ガバナンスの体制として採用している監査役会設置会社のもとでは、当社が置かれている経営環境や内部の状況について深い知見を有する取締役と経験豊富な監査役に加え、幅広い知識や専門性を有した社外監査役によってガバナンスの枠組みが構成されるため、各役員が持つ個々の知識や経験が相互に作用し合いながら、意思決定のプロセスに関与することが可能となり、結果として、監査体制の充実がはかられつつ、経営の迅速性、機動性も確保されているものと考えています。

#### ハ．内部統制システムの整備の状況

当社は、取締役会において内部統制システムの整備に関する基本方針を決定し、本基本方針に従い、コンプライアンス、リスク管理、業務の効率性の確保の観点から、具体的な体制整備と業務執行を行っております。

また、内部統制の整備運用状況についてグループ監査室を組織し、監査役会や監査法人との連携により、財務報告の信頼性の確保や適切なコーポレート・ガバナンスの確保に努めております。

#### ニ．リスク管理体制の整備

当社のリスク管理体制につきましては、グループ監査室が「リスク評価チェックリスト」に基づき内部監査を

実施し、認識されたリスクについて、取締役会等に速やかに報告され、的確に対処できる体制を整備しております。

#### 内部監査及び監査役監査の状況

当社は、内部監査部門につきましては社長直轄の部門としてグループ監査室（２名）を設置しております。また、内部統制についてグループ監査室は監査役会と連携をとりながら、法令遵守、内部統制の有効性等について監査を行い、取締役会に報告を行っております。

監査役は取締役会に出席し、業務執行状況について監査を行うほか、経営戦略会議等重要な会議に出席し、監査役として監査が実質的に機能するよう体制整備を行っております。

#### 会計監査の状況

当社は監査法人東海会計社との間で監査契約を締結し、会計監査を受けております。監査役、監査室長は、会計監査人の往査の立会や監査講評会に出席し報告を受ける等、監査役・監査室長・会計監査人が連携を図り監査の実効性が上がるように努めております。

当事業年度において、業務を執行した公認会計士の氏名、監査業務に係る補助者の構成については以下のとおりです。

#### 業務を執行した公認会計士の氏名

業務執行社員：塚本 憲司、後藤 久貴

所属する監査法人名

監査法人東海会計社

会計監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 5 名、その他 1 名

#### 社外取締役及び社外監査役

当社の社外監査役は 3 名であります。

#### イ．社外監査役と当社との人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係

社外監査役と当社との人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はなく、高い独立性を保持しております。

#### ロ．企業統治において果たす機能及び役割

高い独立性及び専門的な知見に基づき、客観的かつ適切な監視、監督により、当社の企業統治の有効性を高める機能及び役割を担っております。

#### ハ．選任状況に関する考え方

当社の現在の社外監査役は、高い独立性及び専門的な知見に基づき、客観的かつ適切な監視、監督といった期待される機能及び役割を十二分に果たし、当社の企業統治の有効性に大きく寄与しているものと考えております。

#### 二．社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

当社においては監査役 4 名のうち 3 名が社外監査役であり、監査役は会計監査人及び内部監査担当と都度情報交換を実施しており、また、必要に応じて監査役会への出席を求め相互の連携が図られております。

また、社外監査役と内部統制担当は、共有すべき事項について相互に連携し、把握できるような関係にあります。

なお、当社は社外取締役を選任しておりません。当社は経営の意思決定機能と業務執行を管理監督する機能を持つ取締役会に対し、監査役 4 名のうち 3 名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しています。コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外監査役による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

役員報酬の内容等

イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象等なる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる役員 の員数 (人)
		基本報酬	ストック・ オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	164	102	-	41	21	7
監査役 (社外監査役を除く。)	16	14	-	-	2	1
社外役員	16	14	-	-	1	3

ロ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

・ 取締役の報酬

取締役の報酬および賞与は、株主総会の決議により定められたそれぞれの報酬総額の範囲内で、個々の取締役の職務と責任および実績に応じて代表取締役によって決定することにしております。

・ 監査役の報酬

監査役の報酬は、株主総会の決議により定められた監査役報酬総額の範囲内で、個々の監査役の職務と責任に応じた報酬額を監査役会の協議によって決定することにしております。

株式の保有状況

当社及び連結子会社のうち、投資株式の貸借対照表計上額(投資株式計上額)が最も大きい会社(最大保有会社)である株式会社メルコホールディングス及び次に大きい会社株式会社バッファローについては以下のとおりであります。

株式会社メルコホールディングス

イ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

11銘柄 373百万円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
東海物産株式会社	308,150	99	良好な取引関係の維持
株式会社伊予銀行	7,000	6	良好な取引関係の維持
株式会社名古屋銀行	14,919	5	良好な取引関係の維持

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
東海物産株式会社	308,150	112	良好な取引関係の維持
ECS ICT Berhad	2,000,000	88	良好な取引関係の維持
株式会社伊予銀行	7,000	4	良好な取引関係の維持
株式会社名古屋銀行	14,919	3	良好な取引関係の維持

ハ．保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益ならびに評価損益の合計額

	前事業年度 (百万円)	当事業年度(百万円)			
	貸借対照表計上 額の合計額	貸借対照表計上 額の合計額	受取配当金の合 計額	売却損益の合計 額	評価損益の合計 額
非上場株式	-	-	-	-	-
上記以外の株式	16	12	0	-	3

株式会社バッファロー

イ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式  
10銘柄 334百万円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的  
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
株式会社ヤマダ電機	30,000	168	良好な取引関係の維持
上新電機株式会社	100,000	80	良好な取引関係の維持
ダイワボウホールディングス株式会社	300,000	51	良好な取引関係の維持
萩原電気株式会社	12,500	8	良好な取引関係の維持
株式会社ベスト電器	20,000	4	良好な取引関係の維持
株式会社ビックカメラ	107	3	良好な取引関係の維持
株式会社エディオン	3,000	2	良好な取引関係の維持
イオン株式会社	540	0	良好な取引関係の維持

ハ．保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益ならびに評価損益の合計額  
該当事項はありません。

取締役の員数等に関する定款の定め

イ．取締役の員数

当社は、取締役の員数について、15名以内とする旨を定款で定めております。

ロ．取締役の選任方法

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

ハ．取締役の任期

当社は、取締役の任期について、選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとする旨を定款で定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

イ．自己の株式の取得

当社は、資本政策を機動的に遂行することが可能となるように、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

ロ．剰余金の配当

当社は、株主への機動的な利益還元を可能とするため、毎年9月30日を基準日とし、取締役会の決議によって会社法第454条第5項に定める剰余金の配当（中間配当）をすることができる旨を定款で定めております。

ハ．取締役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款で定めております。

ニ．監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる監査役（監査役であったものを含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款で定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会における特別決議の定足数を緩和することによって株主総会の円滑な運営を行うことを目的とし、会社法第309条第2項に定める決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。

（2）【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	12	-	12	-
連結子会社	8	-	8	-
計	20	-	20	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、規模・特性・監査日数等を勘案した上で定めております。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号、以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の連結財務諸表及び前事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の財務諸表並びに当連結会計年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の連結財務諸表及び当事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の財務諸表について、監査法人東海会計社により監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、財務諸表を適正に作成できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、監査法人等が主催する研修会への参加並びに会計専門書の定期購読を行っております。



1【連結財務諸表等】  
(1)【連結財務諸表】  
【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	23,747	22,296
受取手形及び売掛金	21,400	22,080
有価証券	-	9,100
商品及び製品	5,653	5,712
原材料及び貯蔵品	4,394	4,582
繰延税金資産	1,009	833
その他	1,459	1,045
貸倒引当金	48	35
流動資産合計	57,617	65,616
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	584	505
減価償却累計額	1 440	1 256
建物及び構築物(純額)	143	248
機械装置及び運搬具	132	136
減価償却累計額	101	97
機械装置及び運搬具(純額)	30	38
工具、器具及び備品	2,854	2,430
減価償却累計額	1 2,435	1 2,031
工具、器具及び備品(純額)	418	399
土地	264	262
建設仮勘定	9	6
有形固定資産合計	867	956
無形固定資産		
のれん	87	43
その他	2,286	2,179
無形固定資産合計	2,373	2,223
投資その他の資産		
投資有価証券	2 1,219	2, 3 1,856
繰延税金資産	434	455
その他	690	724
貸倒引当金	231	231
投資その他の資産合計	2,112	2,805
固定資産合計	5,352	5,984
資産合計	62,970	71,601

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	21,210	20,148
未払法人税等	985	2,804
未払金	1,869	3 2,868
繰延税金負債	13	1
役員賞与引当金	40	41
製品保証引当金	138	155
訴訟損失引当金	303	44
事務所移転費用引当金	86	-
事業再構築引当金	-	300
その他	2,001	3,222
流動負債合計	26,646	29,586
固定負債		
繰延税金負債	1,550	1,729
退職給付引当金	789	925
役員退職慰労引当金	529	555
リサイクル費用引当金	160	158
その他	52	38
固定負債合計	3,082	3,407
負債合計	29,729	32,994
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	774	774
利益剰余金	31,045	36,435
自己株式	58	59
株主資本合計	32,762	38,150
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	127	95
繰延ヘッジ損益	2	5
為替換算調整勘定	276	314
その他の包括利益累計額合計	145	213
新株予約権	4	-
少数株主持分	619	670
純資産合計	33,240	38,606
負債純資産合計	62,970	71,601

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
売上高	116,911	123,749
売上原価	2 93,466	2 96,518
売上総利益	23,445	27,231
販売費及び一般管理費	1, 3 15,902	1, 3 16,487
営業利益	7,542	10,743
営業外収益		
受取利息	13	53
受取配当金	8	63
仕入割引	12	11
為替差益	-	16
投資事業組合運用益	-	57
デリバティブ評価益	79	24
その他	88	34
営業外収益合計	201	262
営業外費用		
支払利息	0	0
減価償却費	27	7
持分法による投資損失	-	3
為替差損	28	-
支払手数料	-	19
その他	35	20
営業外費用合計	91	51
経常利益	7,652	10,954
特別利益		
固定資産売却益	4 31	-
貸倒引当金戻入額	25	9
訴訟損失引当金戻入額	-	216
リサイクル費用引当金戻入益	73	-
新株予約権戻入益	-	4
その他	0	10
特別利益合計	130	240

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損	5 0	5 1
固定資産除却損	6 56	6 33
投資有価証券売却損	5	0
投資有価証券評価損	-	5
事務所移転費用	7	-
貸倒引当金繰入額	9	-
事務所移転費用引当金繰入額	86	-
事業再構築引当金繰入額	-	300
子会社整理損	22	-
減損損失	7 146	-
過年度使用料	118	88
その他	-	47
特別損失合計	452	476
税金等調整前当期純利益	7,329	10,718
法人税、住民税及び事業税	1,386	4,049
法人税等調整額	737	340
法人税等合計	2,124	4,390
少数株主損益調整前当期純利益	-	6,328
少数株主利益	214	50
当期純利益	4,990	6,277

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	-	6,328
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	32
繰延ヘッジ損益	-	2
為替換算調整勘定	-	37
その他の包括利益合計	-	2 67
包括利益	-	1 6,260
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	-	6,210
少数株主に係る包括利益	-	50

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	1,000	1,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,000	1,000
<b>資本剰余金</b>		
前期末残高	774	774
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	774	774
<b>利益剰余金</b>		
前期末残高	26,810	31,045
当期変動額		
剰余金の配当	755	888
当期純利益	4,990	6,277
当期変動額合計	4,235	5,389
当期末残高	31,045	36,435
<b>自己株式</b>		
前期末残高	57	58
当期変動額		
自己株式の取得	0	1
当期変動額合計	0	1
当期末残高	58	59
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	28,527	32,762
当期変動額		
剰余金の配当	755	888
当期純利益	4,990	6,277
自己株式の取得	0	1
当期変動額合計	4,234	5,387
当期末残高	32,762	38,150

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	5	127
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	122	32
当期変動額合計	122	32
当期末残高	127	95
<b>繰延ヘッジ損益</b>		
前期末残高	0	2
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2	2
当期変動額合計	2	2
当期末残高	2	5
<b>為替換算調整勘定</b>		
前期末残高	290	276
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	14	37
当期変動額合計	14	37
当期末残高	276	314
<b>その他の包括利益累計額合計</b>		
前期末残高	285	145
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	139	67
当期変動額合計	139	67
当期末残高	145	213
<b>新株予約権</b>		
前期末残高	4	4
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	4
当期変動額合計	-	4
当期末残高	4	-
<b>少数株主持分</b>		
前期末残高	405	619
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	214	50
当期変動額合計	214	50
当期末残高	619	670

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	28,652	33,240
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	755	888
当期純利益	4,990	6,277
自己株式の取得	0	1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	353	21
当期変動額合計	4,588	5,366
当期末残高	33,240	38,606



【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	7,329	10,718
減価償却費	1,337	1,309
減損損失	146	-
製品保証引当金の増減額（ は減少）	138	17
訴訟損失引当金の増減額（ は減少）	303	259
事務所移転費用引当金の増減額（ は減少）	86	86
事業再構築引当金の増減額（ は減少）	-	300
受取利息及び受取配当金	21	117
支払利息	0	0
投資事業組合運用損益（ は益）	5	57
投資有価証券売却損益（ は益）	5	0
固定資産売却損益（ は益）	30	1
子会社整理損	22	-
売上債権の増減額（ は増加）	2,421	1,098
たな卸資産の増減額（ は増加）	359	310
仕入債務の増減額（ は減少）	5,052	496
未払消費税等の増減額（ は減少）	83	215
未収消費税等の増減額（ は増加）	315	60
未収入金の増減額（ は増加）	63	148
未払金の増減額（ は減少）	972	1,126
その他	1,213	756
小計	12,285	12,230
利息及び配当金の受取額	21	78
利息の支払額	0	0
訴訟和解金の支払額	147	-
子会社整理に伴う支出額	22	-
法人税等の支払額	1,486	1,646
法人税等の還付額	1,483	57
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,133	10,719
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	17,270	24,170
定期預金の払戻による収入	6,012	25,060
有形固定資産の取得による支出	506	653
有形固定資産の売却による収入	290	0
無形固定資産の取得による支出	404	741
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	371	9,839
投資有価証券の売却及び償還による収入	2	171
その他	15	166
投資活動によるキャッシュ・フロー	12,262	10,340

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	45	-
自己株式の取得による支出	0	1
配当金の支払額	755	888
財務活動によるキャッシュ・フロー	801	889
現金及び現金同等物に係る換算差額	8	50
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	922	562
現金及び現金同等物の期首残高	12,900	11,977
現金及び現金同等物の期末残高	11,977	11,415

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

項目	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
1. 連結の範囲に関する事項	<p>(1) 連結子会社数 14社 主要な連結子会社名は、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載しているため、省略いたしました。</p> <p>(2) 非連結子会社の名称等 非連結子会社はありません。</p>	<p>(1) 連結子会社数 15社 主要な連結子会社名は、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載しているため、省略いたしました。 このうち、株式会社MNB I及び美禄可(北京)商?有限公司については、当連結会計年度において、新たに設立したことにより、連結の範囲に含めております。 また、BUFFALO TECHNOLOGY IRELAND LIMITEDは当連結会計年度において清算したため、連結の範囲から除外しております。</p> <p>(2) 非連結子会社の名称等 同左</p>
2. 持分法の適用に関する事項	<p>(1) 持分法適用の関連会社数 1 会社名 Buffalo Advantec FZCO</p> <p>(2) 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社の名称 資元科技股?有限公司 (持分法を適用していない理由) 持分法非適用会社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。</p> <p>(3) 持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。</p>	<p>(1) 持分法適用の関連会社数 1 会社名 Buffalo Advantec FZCO</p> <p>(2) 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社の名称 資元科技股?有限公司 (持分法を適用していない理由) 同左</p> <p>(3) 同左</p>
3. 連結子会社の事業年度等に関する事項	<p>連結子会社のうち海外子会社5社の決算日は、12月31日であります。 連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、当該子会社の決算日翌日以降連結決算日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p>	同左
4. 会計処理基準に関する事項 (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法	<p>有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。 時価のないもの 移動平均法による原価法 なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。</p>	<p>有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 同左</p> <p>時価のないもの 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
(2) 重要な減価償却資産 の減価償却の方法	<p>デリバティブ 時価法 たな卸資産 当社及び国内連結子会社は主として移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を、また、在外連結子会社は主として移動平均法による低価法を採用しております。</p> <p>有形固定資産（リース資産を除く） 当社及び国内連結子会社は定率法を、また在外連結子会社は主として定額法を採用しております。 （ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）は、定額法によっております。） なお、主な耐用年数は次のとおりであります。 建物及び構築物 5～60年 工具、器具及び備品 2～15年</p> <p>無形固定資産（リース資産を除く） 当社及び国内連結子会社は定額法を採用し、在外連結子会社は所在地国の会計基準に基づく定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（研究開発用のもの3年、その他のもの5年）に基づいております。</p> <p>リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>	<p>デリバティブ 同左 たな卸資産 同左</p> <p>有形固定資産（リース資産を除く） 当社及び国内連結子会社は定率法を、また在外連結子会社は主として定額法を採用しております。 （ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）は、定額法によっております。） なお、主な耐用年数は次のとおりであります。 建物及び構築物 5～50年 工具、器具及び備品 2～15年</p> <p>無形固定資産（リース資産を除く） 同左</p> <p>リース資産 同左</p>
(3) 重要な引当金の計上 基準	<p>貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、当社及び国内連結子会社は、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。また在外連結子会社は主として特定の債権について回収不能見込額を計上しております。</p> <p>役員賞与引当金 当社は、役員賞与の支出に備えて、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。</p>	<p>貸倒引当金 同左</p> <p>役員賞与引当金 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
	<p>退職給付引当金 当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に備えるため、主として当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>なお、数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。</p> <p>役員退職慰労引当金 当社及び連結子会社は、役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく必要額を計上しております。</p> <p>リサイクル費用引当金 リサイクル対象製品等の回収及び再資源化に備えるため、台数を基準として支出見込額を計上しております。</p> <p>(追加情報) リサイクル費用引当金は、製品の出荷台数に一定の計数を乗じて計算しておりますが、将来発生する費用をより合理的に見積もるため、過去の実績を踏まえ、計数の見直しを行っております。</p> <p>これにより、営業利益及び経常利益はそれぞれ7百万円増加し、税金等調整前当期純利益は81百万円増加しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p> <p>製品保証引当金 製品の無償修理費用の支出に備えるため、過去の実績に基づく合理的な見積額を計上しております。</p> <p>(追加情報) 従来、製品の無償修理費用については発生時の費用として処理しておりましたが、過去の実績を基礎に将来の発生額の見積りが可能となったことから、当連結会計年度より過去の実績を基礎とした製品保証に係る修理等の費用の発生見込額を計上しております。</p> <p>これにより、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は、それぞれ138百万円減少しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p>	<p>退職給付引当金 同左</p> <p>役員退職慰労引当金 同左</p> <p>リサイクル費用引当金 同左</p> <p>製品保証引当金 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
(4) 重要な外貨建の資産 又は負債の本邦通貨 への換算基準	<p>訴訟損失引当金 訴訟関連費用の支出に備えるため、将来発生する可能性がある損失等の合理的な見積額を計上しております。</p> <p>(追加情報) 従来、訴訟関連費用については発生時に費用として処理していましたが、警告等の件数が増加する傾向にあり訴訟関連費用の負担額の重要性が増してきたこと及び過去の実績が蓄積されてきたことから、当連結会計年度より訴訟関連費用について合理的な発生見込額を計上しております。</p> <p>これにより、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は、それぞれ303百万円減少しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p> <p>事務所移転費用引当金 来期における事務所移転に伴い発生する費用に備えるため、合理的な見積額を計上しております。</p> <p>(追加情報) 当連結会計年度において、事務所移転に伴い発生する取壊し費用等移転関連費用について、合理的な見積額を計上しております。</p> <p>これにより税金等調整前当期純利益は、86百万円減少しております。</p> <p>外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。</p>	<p>訴訟損失引当金 同左</p> <p>事務所移転費用引当金 事務所移転に伴い発生する費用に備えるため、合理的な見積額を計上しております。</p> <p>事業再構築引当金 事業の再構築に伴い発生する費用に備えるため、当社及び連結子会社が負担することとなる費用の発生見込額を計上しております。</p> <p>(追加情報) 当連結会計年度において、物流移転等の事業の再構築に伴い発生する費用等について、合理的な見積額を計上しております。</p> <p>これにより税金等調整前当期純利益は、300百万円減少しております。</p> <p>同左</p>

項目	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
(5) 重要なヘッジ会計の方法	<p>ヘッジ会計の方法 為替予約等が付されている外貨建金銭債権債務等については、振当処理を行っております。</p> <p>なお、連結会社間取引に付されたヘッジ目的のデリバティブについては、連結会社間の債権債務の相殺消去に伴い時価評価を行った上で、評価差額は当期の損益として処理しております。</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 デリバティブ取引(為替予約取引) ヘッジ対象 外貨建金銭債権債務</p> <p>ヘッジ方針 将来の為替相場変動によるリスク回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。</p> <p>ヘッジの有効性評価の方法 ヘッジの有効性を確保できるような為替予約取引の利用を行っております。</p> <p>その他リスク管理方法のうちヘッジ会計に係るもの 取引権限及び取引限度額等を定めた社内ルールに従って、行っております。</p>	<p>ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象 同左</p> <p>ヘッジ対象 同左</p> <p>ヘッジ方針 同左</p> <p>ヘッジの有効性評価の方法 同左</p> <p>その他リスク管理方法のうちヘッジ会計に係るもの 同左</p>
(6) のれんの償却方法及び償却期間		<p>のれんの償却については、投資単位ごとに投資効果の発現する期間で均等償却しております。</p>
(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲		<p>手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。</p>
(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項	<p>消費税等の会計処理の方法 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。</p> <p>連結納税制度の適用 連結納税制度を適用しております。</p>	<p>消費税等の会計処理の方法 同左</p> <p>連結納税制度の適用 同左</p>
5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項	<p>全面時価評価法を採用しております。</p>	
6. のれん及び負ののれんの償却に関する事項	<p>のれん及び負ののれんの償却については、投資単位ごとに投資効果の発現する期間で均等償却しております。</p>	
7. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	<p>手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。</p>	

## 【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
	<p>当連結会計年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。</p> <p>この変更に伴う、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微であります。</p>

## 【表示方法の変更】

前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
	<p>(連結損益計算書)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 当連結会計年度より、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づき、財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成21年3月24日内閣府令第5号)を適用し、「少数株主損益調整前当期純利益」の科目で表示しております。</li> <li>2. 前連結会計年度まで、営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました「投資事業組合運用益」は、営業外収益の総額の総額の100分の10を超えたため区分掲記いたしました。</li> </ol> <p>なお、前連結会計年度における「投資事業組合運用益」の金額は、5百万円であります。</p>



## 【追加情報】

前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
	当連結会計年度より、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用しております。ただし、「その他の包括利益累計額」及び「その他の包括利益累計額合計」の前連結会計年度の金額は、「評価・換算差額等」及び「評価・換算差額等合計」の金額を記載しております。

## 【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
<p>1 有形固定資産の減損損失累計額 連結貸借対照表上、減価償却累計額に含めて表示しております。</p> <p>2 非連結子会社及び関連会社に対するもの 投資有価証券(株式) 49百万円</p>	<p>1 有形固定資産の減損損失累計額 同左</p> <p>2 非連結子会社及び関連会社に対するもの 投資有価証券(株式) 39百万円</p> <p>3. 担保に供している資産及び担保に係る債務</p> <p>(1) 担保に供している資産 輸入に係る関税及び消費税等の延納に対する担保 投資有価証券 1,227百万円</p> <p>(2) 担保に係る債務 輸入に係る関税及び消費税等 未払金 619百万円</p>

## (連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)																																																																														
<p>1 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>給料・賞与</td><td style="text-align: right;">4,922百万円</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td style="text-align: right;">194百万円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">25百万円</td></tr> <tr><td>運賃</td><td style="text-align: right;">1,541百万円</td></tr> <tr><td>広告宣伝費</td><td style="text-align: right;">1,088百万円</td></tr> <tr><td>支払手数料</td><td style="text-align: right;">3,499百万円</td></tr> <tr><td>訴訟損失引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">303百万円</td></tr> <tr><td>製品保証引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">138百万円</td></tr> <tr><td>役員賞与引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">40百万円</td></tr> <tr><td>のれん償却額</td><td style="text-align: right;">43百万円</td></tr> </table> <p>2 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;"></td><td style="text-align: right;">204百万円</td></tr> </table> <p>3 一般管理費に含まれる研究開発費</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;"></td><td style="text-align: right;">2,502百万円</td></tr> </table> <p>4 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>機械装置及び運搬具</td><td style="text-align: right;">29百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">2百万円</td></tr> </table> <p>5 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>機械装置及び運搬具</td><td style="text-align: right;">0百万円</td></tr> </table> <p>6 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建物及び構築物</td><td style="text-align: right;">16百万円</td></tr> <tr><td>工具、器具及び備品</td><td style="text-align: right;">30百万円</td></tr> <tr><td>ソフトウェア</td><td style="text-align: right;">4百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">3百万円</td></tr> </table> <p>7 減損損失 当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">場所</th> <th style="text-align: center;">用途</th> <th style="text-align: center;">種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">愛知県名古屋市</td> <td style="text-align: center;">統括事業施設等(共用資産)</td> <td style="text-align: center;">建物及び構築物 工具、器具及び備品</td> </tr> </tbody> </table> <p>当連結会計年度において、事務所移転の意思決定をし、その事務所建物等のうち将来の使用見込みがないことが決定されたものについて回収可能価額まで減額し、当該減少額の合計を減損損失(146百万円)として特別損失に計上いたしました。その内訳は、建物及び構築物(141百万円)、工具、器具及び備品(5百万円)であります。</p> <p>なお、これらの資産の回収可能価額は備忘価額をもって評価しております。</p>	給料・賞与	4,922百万円	退職給付費用	194百万円	役員退職慰労引当金繰入額	25百万円	運賃	1,541百万円	広告宣伝費	1,088百万円	支払手数料	3,499百万円	訴訟損失引当金繰入額	303百万円	製品保証引当金繰入額	138百万円	役員賞与引当金繰入額	40百万円	のれん償却額	43百万円		204百万円		2,502百万円	機械装置及び運搬具	29百万円	その他	2百万円	機械装置及び運搬具	0百万円	建物及び構築物	16百万円	工具、器具及び備品	30百万円	ソフトウェア	4百万円	その他	3百万円	場所	用途	種類	愛知県名古屋市	統括事業施設等(共用資産)	建物及び構築物 工具、器具及び備品	<p>1 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>給料・賞与</td><td style="text-align: right;">5,146百万円</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td style="text-align: right;">179百万円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">25百万円</td></tr> <tr><td>運賃</td><td style="text-align: right;">1,633百万円</td></tr> <tr><td>広告宣伝費</td><td style="text-align: right;">1,042百万円</td></tr> <tr><td>支払手数料</td><td style="text-align: right;">3,830百万円</td></tr> <tr><td>製品保証引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">104百万円</td></tr> <tr><td>役員賞与引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">41百万円</td></tr> <tr><td>のれん償却額</td><td style="text-align: right;">43百万円</td></tr> </table> <p>2 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;"></td><td style="text-align: right;">293百万円</td></tr> </table> <p>3 一般管理費に含まれる研究開発費</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;"></td><td style="text-align: right;">3,007百万円</td></tr> </table> <p>5 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建物及び構築物</td><td style="text-align: right;">1百万円</td></tr> <tr><td>工具、器具及び備品</td><td style="text-align: right;">0百万円</td></tr> </table> <p>6 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建物及び構築物</td><td style="text-align: right;">4百万円</td></tr> <tr><td>工具、器具及び備品</td><td style="text-align: right;">24百万円</td></tr> <tr><td>ソフトウェア</td><td style="text-align: right;">2百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">0百万円</td></tr> </table>	給料・賞与	5,146百万円	退職給付費用	179百万円	役員退職慰労引当金繰入額	25百万円	運賃	1,633百万円	広告宣伝費	1,042百万円	支払手数料	3,830百万円	製品保証引当金繰入額	104百万円	役員賞与引当金繰入額	41百万円	のれん償却額	43百万円		293百万円		3,007百万円	建物及び構築物	1百万円	工具、器具及び備品	0百万円	建物及び構築物	4百万円	工具、器具及び備品	24百万円	ソフトウェア	2百万円	その他	0百万円
給料・賞与	4,922百万円																																																																														
退職給付費用	194百万円																																																																														
役員退職慰労引当金繰入額	25百万円																																																																														
運賃	1,541百万円																																																																														
広告宣伝費	1,088百万円																																																																														
支払手数料	3,499百万円																																																																														
訴訟損失引当金繰入額	303百万円																																																																														
製品保証引当金繰入額	138百万円																																																																														
役員賞与引当金繰入額	40百万円																																																																														
のれん償却額	43百万円																																																																														
	204百万円																																																																														
	2,502百万円																																																																														
機械装置及び運搬具	29百万円																																																																														
その他	2百万円																																																																														
機械装置及び運搬具	0百万円																																																																														
建物及び構築物	16百万円																																																																														
工具、器具及び備品	30百万円																																																																														
ソフトウェア	4百万円																																																																														
その他	3百万円																																																																														
場所	用途	種類																																																																													
愛知県名古屋市	統括事業施設等(共用資産)	建物及び構築物 工具、器具及び備品																																																																													
給料・賞与	5,146百万円																																																																														
退職給付費用	179百万円																																																																														
役員退職慰労引当金繰入額	25百万円																																																																														
運賃	1,633百万円																																																																														
広告宣伝費	1,042百万円																																																																														
支払手数料	3,830百万円																																																																														
製品保証引当金繰入額	104百万円																																																																														
役員賞与引当金繰入額	41百万円																																																																														
のれん償却額	43百万円																																																																														
	293百万円																																																																														
	3,007百万円																																																																														
建物及び構築物	1百万円																																																																														
工具、器具及び備品	0百万円																																																																														
建物及び構築物	4百万円																																																																														
工具、器具及び備品	24百万円																																																																														
ソフトウェア	2百万円																																																																														
その他	0百万円																																																																														

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

1 当連結会計年度の直前連結会計年度における包括利益	
親会社株主に係る包括利益	5,130百万円
少数株主に係る包括利益	214百万円
計	5,344百万円
2 当連結会計年度の直前連結会計年度におけるその他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	122百万円
繰延ヘッジ損益	2百万円
為替換算調整勘定	14百万円
計	139百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	22,237,873	-	-	22,237,873
合計	22,237,873	-	-	22,237,873
自己株式				
普通株式(注)	22,393	495	-	22,888
合計	22,393	495	-	22,888

(注) 単元未満株式の買取りによる増加495株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権 の目的とな る株式の種 類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (百万円)
			前連結会計 年度末	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 (親会社)	ストック・オプションと しての新株予約権	-	-	-	-	-	4
	合計	-	-	-	-	-	4

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月26日 定時株主総会	普通株式	377	17	平成21年3月31日	平成21年6月29日
平成21年10月26日 取締役会	普通株式	377	17	平成21年9月30日	平成21年11月24日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	444	利益剰余金	20	平成22年3月31日	平成22年6月30日

当連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	22,237,873	-	-	22,237,873
合計	22,237,873	-	-	22,237,873
自己株式				
普通株式(注)	22,888	493	-	23,381
合計	22,888	493	-	23,381

(注) 単元未満株式の買取りによる増加493株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	444	20	平成22年3月31日	平成22年6月30日
平成22年10月25日 取締役会	普通株式	444	20	平成22年9月30日	平成22年11月24日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月28日 定時株主総会	普通株式	888	利益剰余金	40	平成23年3月31日	平成23年6月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年3月31日) (百万円)	1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年3月31日) (百万円)
現金及び預金勘定 23,747	現金及び預金勘定 22,296
預入期間が3ヶ月を超える定期預金 11,770	預入期間が3ヶ月を超える定期預金 10,880
現金及び現金同等物 11,977	現金及び現金同等物 11,415

(リース取引関係)

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)																						
<p>所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;"></th> <th style="width: 20%;">取得価額相当額 (百万円)</th> <th style="width: 20%;">減価償却累計額相当額 (百万円)</th> <th style="width: 30%;">期末残高相当額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合計</td> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>(2) 未経過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">1百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">-百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1百万円</td> </tr> </table> <p>(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>(3) 支払リース料及び減価償却費相当額</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">0百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">0百万円</td> </tr> </table> <p>(4) 減価償却費相当額の算定方法</p> <p>リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p>		取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)	工具、器具及び備品	7	6	1	合計	7	6	1	1年内	1百万円	1年超	-百万円	合計	1百万円	支払リース料	0百万円	減価償却費相当額	0百万円	<p>所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、重要性が乏しいため、連結財務諸表規則附則(平成19年内閣府令第65号)第10条第3項の規定により、その記載を省略しております。</p>
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)																				
工具、器具及び備品	7	6	1																				
合計	7	6	1																				
1年内	1百万円																						
1年超	-百万円																						
合計	1百万円																						
支払リース料	0百万円																						
減価償却費相当額	0百万円																						

(金融商品関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全かつ効率的な運用を最優先に考え、現時点では短期的な預金等を中心に行っております。資金調達については、グループ内ファイナンスを活用しており、外部金融機関からの当座貸越契約枠を確保しつつも、現時点では外部からの有利子借入調達は行っていません。

なお、デリバティブは内部管理規程に従い、実需の範囲内のヘッジ目的でのみ行い、投機的な取引は一切行わない方針です。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金に係る信用リスクに関しては、与信管理規程に沿った管理を行っており、取引信用保険契約も利用し、リスク低減を図っております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式と、長期投資目的の債券等であり、市場価格の変動リスク及び信用リスクを有しておりますが、随時(最低四半期ごと、対象によっては毎週)時価の把握を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほとんどが1年以内の支払期日です。営業債務に係る流動性リスクに関しては、当社グループは十分な手元流動性と金融機関からの当座貸越契約枠を保持しており、更にグループ内ファイナンスによる資金の集中と配分を行う制度も整備しております。

海外との取引に対して発生する外貨建売掛金及び外貨建買掛金は、為替の変動リスクを有しておりますが、原則としてすべての外貨建債権債務に対し、デリバティブである先物為替予約を利用して、ヘッジしております。

なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (5)重要なヘッジ会計の方法」を参照下さい。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた社内規程に従って行っており、常時契約額及び損益影響の管理をしております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

「2. 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(注)2を参照下さい)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	23,747	23,747	-
(2) 受取手形及び売掛金	21,400	21,400	-
(3) 投資有価証券	941	941	-
(4) 支払手形及び買掛金	(21,210)	(21,210)	-
(5) デリバティブ取引	78	78	-

(\*1)負債に計上されているものについては、( )で示しております。

(\*2)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(注)1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式・債券は取引所の価格及び取引金融機関から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」を参照下さい。

(4) 支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」を参照下さい。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

	連結貸借対照表計上額(百万円)
非上場株式	156
投資事業有限責任組合	71

これらについては、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積もるには過大なコストを要すると見込まれます。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

(注) 3. 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
現金及び預金	23,747	-	-
受取手形及び売掛金	21,400	-	-
投資有価証券 その他有価証券のうち満 期があるもの	-	171	-
合計	45,148	171	-

(追加情報)

当連結会計年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

当連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全かつ効率的な運用を最優先に考え、現時点では安全性の高い短期の、預金及び有価証券等を中心に行っております。資金調達については、グループ内ファイナンスを活用しており、外部金融機関からの当座貸越契約枠を確保しつつも、現時点では外部からの有利子借入調達は行っておりません。

なお、デリバティブは内部管理規程に従い、実需の範囲内のヘッジ目的でのみ行い、投機的な取引は一切行わない方針です。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金に係る信用リスクに関しては、与信管理規程に沿った管理を行っており、取引信用保険契約も利用し、リスク低減を図っております。

有価証券及び投資有価証券は、主に投資信託、業務上の関係を有する企業の株式及び長期投資目的の債券等であり、市場価格の変動リスク及び信用リスクを有しておりますが、随時（最低四半期ごと、対象によっては毎週）時価の把握を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほとんどが1年以内の支払期日です。営業債務に係る流動性リスクに関しては、当社グループは十分な手元流動性と金融機関からの当座貸越契約枠を保持しており、更にグループ内ファイナンスによる資金の集中と配分を行う制度も整備しております。

海外との取引に対して発生する外貨建売掛金及び外貨建買掛金は、為替の変動リスクを有しておりますが、原則としてすべての外貨建債権債務に対し、デリバティブである先物為替予約を利用して、ヘッジしております。

なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法については、前述の連結財務諸表の作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項(5)重要なヘッジ会計の方法」を参照ください。

デリバティブ取引の執行・管理については、社内規程に従って行っており、常時契約額および損益影響の管理をしております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

「2. 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（（注）2を参照下さい）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	22,296	22,296	-
(2) 受取手形及び売掛金	22,080	22,080	-
(3) 有価証券及び投資有価証券	10,689	10,689	-
(4) 支払手形及び買掛金	(20,148)	(20,148)	-
(5) デリバティブ取引	30	30	-

(\*1) 負債に計上されているものについては、( )で示しております。

(\*2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。



(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、取引所の価格及び取引金融機関から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」を参照ください。

(4) 支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」を参照下さい。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

	連結貸借対照表計上額(百万円)
非上場株式	229
投資事業有限責任組合	37

これらについては、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積もるには過大なコストを要すると見込まれます。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(注) 3. 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
現金及び預金	22,296	-	-
受取手形及び売掛金	22,080	-	-
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券のうち満 期があるもの	9,100	-	798
合計	53,477	-	798

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成22年3月31日)

1. その他有価証券

区分	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1)株式	291	94	197
	(2)債券	100	100	0
	(3)その他	332	300	32
	小計	723	494	229
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1)株式	218	255	37
	小計	218	255	37
合計		941	750	191

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 156百万円)及び投資事業有限責任組合(同 71百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
(1)株式	2	-	5
合計	2	-	5

3. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、減損処理を行った有価証券はありません。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価または実質価額が取得原価に比べ50%以上下落した場合にはすべて減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

当連結会計年度(平成23年3月31日)

1. その他有価証券

区分	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1)株式	281	123	157
	(2)債券	899	897	1
	(3)その他	233	200	33
	小計	1,413	1,221	192
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1)株式	276	306	30
	(2)その他	9,000	9,000	-
	小計	9,276	9,306	30
合計		10,689	10,527	161

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 229百万円)及び投資事業有限責任組合(同 37百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
(3)その他	99	-	0
合計	99	-	0

3. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、有価証券について5百万円(その他有価証券の株式5百万円)減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価または実質価額が取得原価に比べ50%以上下落した場合にはすべて減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の 取引	為替予約取引 売建				
	米ドル	7,998	-	11	11
	ユーロ	149	-	3	3
	買建 米ドル	12,706	-	88	88
	合計	-	-	73	73

(注) 時価の算定方法は、取引先金融機関等から提示された価格等によっております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

通貨関連

ヘッジ会計 の方法	取引の種類	主なヘッジ対 象	契約額等 (百万円)	契約額等のう ち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約等の 振当処理	為替予約取引 売建				
	米ドル	売掛金	903	-	(注) 2
	ユーロ	未収入金	39	-	(注) 2
	買建 米ドル	買掛金	6,353	-	(注) 2
	ユーロ	未払金	268	-	(注) 2
原則的処理 方法	売建 米ドル	売掛金	54	-	1
	買建 米ドル	買掛金	1,009	-	6
	合計		-	-	4

(注) 1. 時価の算定方法は、取引先金融機関等から提示された価格等によっております。

2. 為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている債権債務と一体として処理されているため、その時価は、当該債権債務の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の 取引	為替予約取引 売建				
	米ドル	10,245	-	33	33
	ユーロ	248	-	4	4
	買建				
	米ドル	13,844	-	51	51
	ユーロ	39	-	0	0
	合計	-	-	22	22

(注) 時価の算定方法は、取引先金融機関等から提示された価格等によっております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

通貨関連

ヘッジ会計 の方法	取引の種類	主なヘッジ対 象	契約額等 (百万円)	契約額等のう ち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約等の 振当処理	為替予約取引 売建				
	米ドル	売掛金	1,193	-	(注) 2
	買建				
	米ドル	買掛金	4,687	-	(注) 2
	ユーロ	未払金	230	-	(注) 2
原則的処理 方法	売建				
	米ドル	売掛金	560	-	12
	買建				
	米ドル	買掛金	814	-	4
	合計		-	-	8

(注) 1. 時価の算定方法は、取引先金融機関等から提示された価格等によっております。

2. 為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている債権債務と一体として処理されているため、その時価は、当該債権債務の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社の一部は、確定給付型の制度として、適格退職年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して、割増退職金を支払う場合があります。

2. 退職給付債務及びその内訳

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
(1) 退職給付債務	1,490百万円	1,623百万円
(2) 年金資産	618百万円	667百万円
(3) 未積立退職給付債務 (1) + (2)	871百万円	955百万円
(4) 未認識数理計算上の差異	82百万円	30百万円
(5) 連結貸借対照表計上額純額 (3) + (4)	789百万円	925百万円
(6) 退職給付引当金	789百万円	925百万円

(注) 国内連結子会社の一部は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用の内訳

	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
(1) 勤務費用	169百万円	167百万円
(2) 利息費用	19百万円	21百万円
(3) 期待運用収益	2百万円	3百万円
(4) 数理計算上の差異の費用処理額	33百万円	24百万円
(5) 退職給付費用(1) + (2) + (3) + (4)	219百万円	209百万円

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は「(1) 勤務費用」に計上しております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
(1) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	同左
(2) 割引率	1.5%	1.5%
(3) 期待運用収益率	0.5%	0.5%
(4) 数理計算上の差異の処理年数	5年	5年

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

1. スtock・オプションに係る当連結会計年度における費用計上額及び科目名  
販売費及び一般管理費 - 百万円

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成17年 ストック・オプション	平成18年 ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当社子会社の従業員5名	当社子会社の従業員5名
ストック・オプション数	普通株式11,000株	普通株式7,000株
付与日	平成17年7月8日	平成18年7月11日
権利確定条件	付与日(平成17年7月8日)以降、権利確定日(平成20年3月31日)まで継続して勤務していること。	付与日(平成18年7月11日)以降、権利確定日(平成21年3月31日)まで継続して勤務していること。
対象勤務期間	平成17年7月8日から平成20年3月31日まで	平成18年7月11日から平成21年3月31日まで
権利行使期間	平成20年4月1日から平成22年3月31日まで	平成21年4月1日から平成23年3月31日まで

(2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	平成17年 ストック・オプション	平成18年 ストック・オプション
権利確定前 (株)		
前連結会計年度末	-	7,000
付与	-	-
失効	-	-
権利確定	-	7,000
未確定残	-	-
権利確定後 (株)		
前連結会計年度末	10,000	-
権利確定	-	7,000
権利行使	-	-
失効	10,000	-
未行使残	-	7,000

単価情報

	平成17年 ストック・オプション	平成18年 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	2,735	3,201
行使時平均株価 (円)	-	-
公正な評価単価(付与日) (円)	-	669

3. スtock・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

当連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

- 1．ストック・オプションに係る当連結会計年度における費用計上額及び科目名  
販売費及び一般管理費 - 百万円
- 2．権利不行使による失効により利益として計上した額  
新株予約権戻入益 4百万円
- 3．ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況  
(1) スtock・オプションの内容

	平成18年 ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当社子会社の従業員5名
ストック・オプション数	普通株式7,000株
付与日	平成18年7月11日
権利確定条件	付与日（平成18年7月11日）以降、権利確定日（平成21年3月31日）まで継続して勤務していること。
対象勤務期間	平成18年7月11日から平成21年3月31日まで
権利行使期間	平成21年4月1日から平成23年3月31日まで

(2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	平成18年 ストック・オプション
権利確定前 (株)	
前連結会計年度末	-
付与	-
失効	-
権利確定	-
未確定残	-
権利確定後 (株)	
前連結会計年度末	7,000
権利確定	-
権利行使	-
失効	7,000
未行使残	-

単価情報

	平成18年 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	3,201
行使時平均株価 (円)	-
公正な評価単価（付与日） (円)	669

4．ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

## (税効果会計関係)

前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)																																																																																												
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(百万円)</p> <table> <tr><td>繰延税金資産</td><td></td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">204</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">214</td></tr> <tr><td>未払賞与</td><td style="text-align: right;">310</td></tr> <tr><td>長期前払費用</td><td style="text-align: right;">146</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">316</td></tr> <tr><td>税務上の繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">1,346</td></tr> <tr><td>リサイクル費用引当金</td><td style="text-align: right;">64</td></tr> <tr><td>訴訟損失引当金</td><td style="text-align: right;">121</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">439</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">3,165</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">1,461</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right;">1,703</td></tr> <tr><td>繰延税金負債</td><td></td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">85</td></tr> <tr><td>連結子会社の減資に伴う株式譲渡損</td><td style="text-align: right;">1,717</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">19</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right;">1,823</td></tr> <tr><td>繰延税金資産(負債)の純額</td><td style="text-align: right;">119</td></tr> </table> <p>繰延税金資産(負債)の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <p style="text-align: right;">(百万円)</p> <table> <tr><td>流動資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">1,009</td></tr> <tr><td>固定資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">434</td></tr> <tr><td>流動負債 - 繰延税金負債</td><td style="text-align: right;">13</td></tr> <tr><td>固定負債 - 繰延税金負債</td><td style="text-align: right;">1,550</td></tr> </table>	繰延税金資産		役員退職慰労引当金	204	未払事業税	214	未払賞与	310	長期前払費用	146	退職給付引当金	316	税務上の繰越欠損金	1,346	リサイクル費用引当金	64	訴訟損失引当金	121	その他	439	繰延税金資産小計	3,165	評価性引当額	1,461	繰延税金資産合計	1,703	繰延税金負債		その他有価証券評価差額金	85	連結子会社の減資に伴う株式譲渡損	1,717	その他	19	繰延税金負債合計	1,823	繰延税金資産(負債)の純額	119	流動資産 - 繰延税金資産	1,009	固定資産 - 繰延税金資産	434	流動負債 - 繰延税金負債	13	固定負債 - 繰延税金負債	1,550	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(百万円)</p> <table> <tr><td>繰延税金資産</td><td></td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">215</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">216</td></tr> <tr><td>未払賞与</td><td style="text-align: right;">307</td></tr> <tr><td>長期前払費用</td><td style="text-align: right;">108</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">365</td></tr> <tr><td>税務上の繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">2,051</td></tr> <tr><td>リサイクル費用引当金</td><td style="text-align: right;">64</td></tr> <tr><td>訴訟損失引当金</td><td style="text-align: right;">12</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">586</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">3,928</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">2,536</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right;">1,391</td></tr> <tr><td>繰延税金負債</td><td></td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">65</td></tr> <tr><td>連結子会社の減資に伴う株式譲渡損</td><td style="text-align: right;">1,735</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">32</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right;">1,833</td></tr> <tr><td>繰延税金資産(負債)の純額</td><td style="text-align: right;">442</td></tr> </table> <p>繰延税金資産(負債)の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <p style="text-align: right;">(百万円)</p> <table> <tr><td>流動資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">833</td></tr> <tr><td>固定資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">455</td></tr> <tr><td>流動負債 - 繰延税金負債</td><td style="text-align: right;">1</td></tr> <tr><td>固定負債 - 繰延税金負債</td><td style="text-align: right;">1,729</td></tr> </table>	繰延税金資産		役員退職慰労引当金	215	未払事業税	216	未払賞与	307	長期前払費用	108	退職給付引当金	365	税務上の繰越欠損金	2,051	リサイクル費用引当金	64	訴訟損失引当金	12	その他	586	繰延税金資産小計	3,928	評価性引当額	2,536	繰延税金資産合計	1,391	繰延税金負債		その他有価証券評価差額金	65	連結子会社の減資に伴う株式譲渡損	1,735	その他	32	繰延税金負債合計	1,833	繰延税金資産(負債)の純額	442	流動資産 - 繰延税金資産	833	固定資産 - 繰延税金資産	455	流動負債 - 繰延税金負債	1	固定負債 - 繰延税金負債	1,729
繰延税金資産																																																																																													
役員退職慰労引当金	204																																																																																												
未払事業税	214																																																																																												
未払賞与	310																																																																																												
長期前払費用	146																																																																																												
退職給付引当金	316																																																																																												
税務上の繰越欠損金	1,346																																																																																												
リサイクル費用引当金	64																																																																																												
訴訟損失引当金	121																																																																																												
その他	439																																																																																												
繰延税金資産小計	3,165																																																																																												
評価性引当額	1,461																																																																																												
繰延税金資産合計	1,703																																																																																												
繰延税金負債																																																																																													
その他有価証券評価差額金	85																																																																																												
連結子会社の減資に伴う株式譲渡損	1,717																																																																																												
その他	19																																																																																												
繰延税金負債合計	1,823																																																																																												
繰延税金資産(負債)の純額	119																																																																																												
流動資産 - 繰延税金資産	1,009																																																																																												
固定資産 - 繰延税金資産	434																																																																																												
流動負債 - 繰延税金負債	13																																																																																												
固定負債 - 繰延税金負債	1,550																																																																																												
繰延税金資産																																																																																													
役員退職慰労引当金	215																																																																																												
未払事業税	216																																																																																												
未払賞与	307																																																																																												
長期前払費用	108																																																																																												
退職給付引当金	365																																																																																												
税務上の繰越欠損金	2,051																																																																																												
リサイクル費用引当金	64																																																																																												
訴訟損失引当金	12																																																																																												
その他	586																																																																																												
繰延税金資産小計	3,928																																																																																												
評価性引当額	2,536																																																																																												
繰延税金資産合計	1,391																																																																																												
繰延税金負債																																																																																													
その他有価証券評価差額金	65																																																																																												
連結子会社の減資に伴う株式譲渡損	1,735																																																																																												
その他	32																																																																																												
繰延税金負債合計	1,833																																																																																												
繰延税金資産(負債)の純額	442																																																																																												
流動資産 - 繰延税金資産	833																																																																																												
固定資産 - 繰延税金資産	455																																																																																												
流動負債 - 繰延税金負債	1																																																																																												
固定負債 - 繰延税金負債	1,729																																																																																												
<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(%)</p> <table> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.6</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>住民税均等割等</td><td style="text-align: right;">0.3</td></tr> <tr><td>評価性引当額の増減</td><td style="text-align: right;">9.6</td></tr> <tr><td>のれん償却</td><td style="text-align: right;">0.2</td></tr> <tr><td>外国税額控除不能額</td><td style="text-align: right;">0.2</td></tr> <tr><td>税額控除</td><td style="text-align: right;">3.6</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">0.9</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;">29.0</td></tr> </table>	法定実効税率	40.6	(調整)		住民税均等割等	0.3	評価性引当額の増減	9.6	のれん償却	0.2	外国税額控除不能額	0.2	税額控除	3.6	その他	0.9	税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.0	<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(%)</p> <table> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.6</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>住民税均等割等</td><td style="text-align: right;">0.2</td></tr> <tr><td>評価性引当額の増減</td><td style="text-align: right;">1.6</td></tr> <tr><td>のれん償却</td><td style="text-align: right;">0.2</td></tr> <tr><td>外国税額控除不能額</td><td style="text-align: right;">0.5</td></tr> <tr><td>税額控除</td><td style="text-align: right;">2.5</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">0.4</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;">41.0</td></tr> </table>	法定実効税率	40.6	(調整)		住民税均等割等	0.2	評価性引当額の増減	1.6	のれん償却	0.2	外国税額控除不能額	0.5	税額控除	2.5	その他	0.4	税効果会計適用後の法人税等の負担率	41.0																																																								
法定実効税率	40.6																																																																																												
(調整)																																																																																													
住民税均等割等	0.3																																																																																												
評価性引当額の増減	9.6																																																																																												
のれん償却	0.2																																																																																												
外国税額控除不能額	0.2																																																																																												
税額控除	3.6																																																																																												
その他	0.9																																																																																												
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.0																																																																																												
法定実効税率	40.6																																																																																												
(調整)																																																																																													
住民税均等割等	0.2																																																																																												
評価性引当額の増減	1.6																																																																																												
のれん償却	0.2																																																																																												
外国税額控除不能額	0.5																																																																																												
税額控除	2.5																																																																																												
その他	0.4																																																																																												
税効果会計適用後の法人税等の負担率	41.0																																																																																												
<p>3. 税効果会計に使用する法定実効税率の変更</p> <p>平成21年12月28日に「名古屋市市民税減税条例」が公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、前事業年度の40.6%から40.2%に変更されております。</p> <p>この変更による影響額は軽微であります。</p>	<p>3. 税効果会計に使用する法定実効税率の変更</p> <p>当事業年度に名古屋市市民税減税条例の一部を改正する条例(平成22年3月31日公布)が公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、前事業年度の40.2%から40.6%に変更されております。</p> <p>この変更による影響額は軽微であります。</p>																																																																																												



(企業結合等関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当連結会計年度末(平成23年3月31日)

重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

当社グループは、コンピュータ周辺機器の製造・販売を主事業としている専門メーカーであり、当該事業の売上高、営業利益及び資産の金額は、全セグメントの売上高の合計、営業利益及び全セグメント資産の金額の合計額に占める割合が、いずれも90%超であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

	日本 (百万円)	東南 アジア (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	102,449	1,335	4,574	8,552	116,911	-	116,911
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	10,264	9,418	15	205	19,904	19,904	-
計	112,714	10,754	4,590	8,757	136,816	19,904	116,911
営業費用	105,512	10,702	4,436	8,690	129,341	19,971	109,369
営業利益	7,201	52	154	67	7,475	67	7,542
資産	61,511	8,737	933	2,993	74,175	11,205	62,970

(注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 本邦以外の区分に属する地域の内訳は、次のとおりであります。

東南アジア.....台湾

北米.....米国

欧州.....英国、オランダ

### 3. 追加情報

当連結会計年度

(リサイクル費用引当金)

リサイクル費用引当金は、製品の出荷台数に一定の計数を乗じて計算しておりますが、将来発生する費用をより合理的に見積もるため、過去の実績を踏まえ、計数の見直しを行っております。

これにより、営業利益が日本で7百万円増加しております。

(製品保証引当金)

従来、製品の無償修理費用については発生時の費用として処理しておりましたが、過去の実績を基礎に将来の発生額の見積もりが可能となったことから、当連結会計年度より過去の実績を基礎とした製品保証に係る修理等の費用の発生見込額を計上しております。

これにより、営業利益が日本で138百万円減少しております。

(訴訟損失引当金)

従来、訴訟関連費用については発生時に費用として処理しておりましたが、警告等の件数が増加する傾向にあり訴訟関連費用の負担額の重要性が増してきたこと及び過去の実績が蓄積されてきたことから、当連結会計年度より訴訟関連費用について合理的な発生見込額を計上しております。

これにより、営業利益が日本で303百万円減少しております。

#### 【海外売上高】

前連結会計年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

	アジア オセアニア	北米	欧州	計
海外売上高(百万円)	6,119	4,574	8,552	19,246
連結売上高(百万円)	-	-	-	116,911
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	5.23	3.91	7.31	16.46

(注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 各区分に属する地域の内訳は、次のとおりであります。

アジア、オセアニア.....香港、台湾、韓国、オーストラリア等

北米.....米国、カナダ

欧州.....英国、ドイツ、オーストリア等

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

【セグメント情報】

当連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。当社グループは、国内外でパソコン周辺機器及びデジタル家電の周辺機器の製造及び販売をしております。なお、製造・販売体制を基礎とした地域別のセグメントから構成されており、「日本」、「アジア」、「欧州」及び「米国」の4つを報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」と同一であります。なお、セグメント間の取引は、市場価格等に基づいております。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	日本	アジア	欧州	米国	
売上高					
外部顧客への売上高	102,449	1,335	8,552	4,574	116,911
セグメント間の内部売上高 又は振替高	10,264	9,418	205	15	19,904
計	112,714	10,754	8,757	4,590	136,816
セグメント利益	7,201	52	67	154	7,475
セグメント資産	61,511	8,737	2,993	933	74,175
減価償却費	1,302	12	12	9	1,337
のれんの償却額	43	-	-	-	43
減損損失	146	-	-	-	146
有形固定資産及び無形固定資産の 増加額	860	1	4	6	872

当連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	日本	アジア	欧州	米国	
売上高					
外部顧客への売上高	113,494	926	6,430	2,898	123,749
セグメント間の内部売上高 又は振替高	8,495	8,110	49	15	16,670
計	121,989	9,037	6,479	2,913	140,420
セグメント利益又は損失( )	10,770	158	38	22	10,913
セグメント資産	68,599	11,062	2,215	697	82,574
減価償却費	1,279	7	10	12	1,309
のれんの償却額	43	-	-	-	43
減損損失	-	-	-	-	-
有形固定資産及び無形固定資産の 増加額	1,301	0	11	11	1,325

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	136,816	140,420
セグメント間取引消去	19,904	16,670
連結財務諸表の売上高	116,911	123,749

(単位:百万円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	7,475	10,913
セグメント間取引消去	67	169
連結財務諸表の営業利益	7,542	10,743

(単位:百万円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	74,175	82,574
セグメント間取引消去	11,205	10,973
連結財務諸表の資産合計	62,970	71,601

【関連情報】

当連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

当社グループは、デジタル家電及びコンピュータの周辺機器の製造・販売を主事業としている専門メーカーであり、当該事業の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位:百万円)

日本	米国	欧州	アジア	合計
107,866	2,898	6,430	6,554	123,749

(注)売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類している。

(2) 有形固定資産

(単位:百万円)

日本	米国	欧州	アジア	合計
722	22	23	187	956

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
ヤマダ電機株式会社	17,514	日本
ダイワボウ情報システム株式会社	13,225	日本

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

(単位：百万円)

	日本	米国	欧州	アジア	合計
当期償却額	43	-	-	-	43
当期末残高	43	-	-	-	43

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

当連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(追加情報)

当連結会計年度より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

## 【関連当事者情報】

前連結会計年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

該当事項はありません。

## （1株当たり情報）

前連結会計年度 （自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）		当連結会計年度 （自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）	
1株当たり純資産額	1,468.22円	1株当たり純資産額	1,707.75円
1株当たり当期純利益金額	224.66円	1株当たり当期純利益金額	282.59円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

（注）1．1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前連結会計年度末 （平成22年3月31日）	当連結会計年度末 （平成23年3月31日）
純資産の部の合計金額（百万円）	33,240	38,606
純資産の部の合計金額から控除する金額（百万円）	624	670
（うち新株予約権）	(4)	-
（うち少数株主持分）	(619)	(670)
普通株式に係る期末の純資産額（百万円）	32,616	37,936
1株当たり純資産の算定に用いられた期末の普通株式の数（株）	22,214,985	22,214,492

（注）2．1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 （自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）	当連結会計年度 （自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益（百万円）	4,990	6,277
普通株主に帰属しない金額（百万円）	-	-
普通株式に係る当期純利益（百万円）	4,990	6,277
普通株式の期中平均株式数（株）	22,215,226	22,214,795
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	平成18年6月29日定時株主総会決議によるストック・オプション（株式の数7,000株）	

## （重要な後発事象）

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
	自平成22年4月1日 至平成22年6月30日	自平成22年7月1日 至平成22年9月30日	自平成22年10月1日 至平成22年12月31日	自平成23年1月1日 至平成23年3月31日
売上高(百万円)	30,249	28,684	34,725	30,090
税金等調整前四半期純利益 金額(百万円)	3,055	1,737	3,714	2,211
四半期純利益金額 (百万円)	1,873	1,041	2,179	1,183
1株当たり四半期純利益 金額(円)	84.35	46.87	98.10	53.27

2【財務諸表等】  
(1)【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	16,672	17,545
営業未収入金	2 181	2 145
有価証券	-	9,100
前払費用	33	53
関係会社短期貸付金	8,532	3,000
繰延税金資産	219	25
未収入金	2 1,557	2 1,538
その他	10	47
流動資産合計	27,207	31,456
固定資産		
有形固定資産		
建物		
	142	73
減価償却累計額	1 131	8
建物(純額)	11	64
構築物		
	13	54
減価償却累計額	1 5	8
構築物(純額)	7	45
工具、器具及び備品		
	6	32
減価償却累計額	3	8
工具、器具及び備品(純額)	2	23
土地		
	158	158
有形固定資産合計	180	292
無形固定資産		
ソフトウェア		
	217	278
商標権		
	-	4
その他		
	2	72
無形固定資産合計	219	355
投資その他の資産		
投資有価証券		
	773	4 1,466
関係会社株式		
	10,909	10,541
関係会社出資金		
	-	270
関係会社長期貸付金		
	18	7
その他		
	285	354
貸倒引当金		
	9	9
投資その他の資産合計	11,977	12,629
固定資産合計	12,377	13,278
資産合計	39,585	44,734



	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	3	3
未払金	2 109	2 233
未払費用	62	48
未払法人税等	28	1,837
前受金	44	44
預り金	2 435	2 670
訴訟損失引当金	303	44
事務所移転費用引当金	76	-
役員賞与引当金	40	41
その他	31	5
流動負債合計	1,134	2,928
固定負債		
退職給付引当金	63	71
役員退職慰労引当金	138	163
繰延税金負債	1,567	1,722
固定負債合計	1,768	1,958
負債合計	2,902	4,887
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金		
資本準備金	250	250
その他資本剰余金	8,408	8,408
資本剰余金合計	8,658	8,658
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	27,033	30,203
利益剰余金合計	27,033	30,203
自己株式	58	59
株主資本合計	36,633	39,802
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	44	45
評価・換算差額等合計	44	45
新株予約権	4	-
純資産合計	36,682	39,847
負債純資産合計	39,585	44,734

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>売上高</b>		
関係会社受取配当金	1,222	4,230
経営指導料	1 1,174	1 1,346
不動産賃貸収入	1 462	1 504
<b>売上高合計</b>	<b>2,859</b>	<b>6,082</b>
<b>売上原価</b>		
不動産賃貸原価	396	472
<b>売上原価合計</b>	<b>396</b>	<b>472</b>
<b>売上総利益</b>	<b>2,462</b>	<b>5,610</b>
販売費及び一般管理費	2 1,597	2 1,614
<b>営業利益</b>	<b>865</b>	<b>3,995</b>
<b>営業外収益</b>		
受取利息	1 212	1 138
受取配当金	2	59
為替差益	1	-
賃貸料収入	1 54	1 81
投資事業組合運用益	-	51
未払配当金除斥益	0	-
法人税等還付加算金	1	-
その他	11	17
<b>営業外収益合計</b>	<b>285</b>	<b>348</b>
<b>営業外費用</b>		
支払利息	0	0
為替差損	-	10
投資事業組合運用損	20	-
支払手数料	-	19
その他	5	10
<b>営業外費用合計</b>	<b>26</b>	<b>40</b>
<b>経常利益</b>	<b>1,123</b>	<b>4,304</b>
<b>特別利益</b>		
訴訟損失引当金戻入額	-	216
その他	-	11
<b>特別利益合計</b>	<b>-</b>	<b>227</b>

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>特別損失</b>		
関係会社株式評価損	-	87
子会社整理損	62	-
貸倒引当金繰入額	9	-
事務所移転費用引当金繰入額	76	-
減損損失	107	-
その他	8	4
特別損失合計	265	91
税引前当期純利益	858	4,439
法人税、住民税及び事業税	1,727	32
法人税等調整額	1,276	347
法人税等合計	451	380
当期純利益	1,309	4,058

【不動産賃貸原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月 31日)		当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
経費 不動産賃貸原価	1	396	100.0	472	100.0
		396	100.0	472	100.0

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日)
1 主な内容は次のとおりであります。 地代家賃 364百万円	1 主な内容は次のとおりであります。 地代家賃 422百万円

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	1,000	1,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,000	1,000
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
前期末残高	250	250
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	250	250
<b>その他資本剰余金</b>		
前期末残高	8,408	8,408
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	8,408	8,408
<b>資本剰余金合計</b>		
前期末残高	8,658	8,658
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	8,658	8,658
<b>利益剰余金</b>		
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>繰越利益剰余金</b>		
前期末残高	26,479	27,033
当期変動額		
剰余金の配当	755	888
当期純利益	1,309	4,058
当期変動額合計	554	3,169
当期末残高	27,033	30,203
<b>利益剰余金合計</b>		
前期末残高	26,479	27,033
当期変動額		
剰余金の配当	755	888
当期純利益	1,309	4,058
当期変動額合計	554	3,169
当期末残高	27,033	30,203
<b>自己株式</b>		
前期末残高	57	58

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
当期変動額		
自己株式の取得	0	1
当期変動額合計	0	1
当期末残高	58	59
株主資本合計		
前期末残高	36,079	36,633
当期変動額		
剰余金の配当	755	888
当期純利益	1,309	4,058
自己株式の取得	0	1
当期変動額合計	553	3,168
当期末残高	36,633	39,802
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	4	44
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	40	1
当期変動額合計	40	1
当期末残高	44	45
評価・換算差額等合計		
前期末残高	4	44
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	40	1
当期変動額合計	40	1
当期末残高	44	45
新株予約権		
前期末残高	4	4
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	4
当期変動額合計	-	4
当期末残高	4	-
純資産合計		
前期末残高	36,088	36,682
当期変動額		
剰余金の配当	755	888
当期純利益	1,309	4,058
自己株式の取得	0	1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	40	3
当期変動額合計	593	3,164
当期末残高	36,682	39,847

【重要な会計方針】

項目	前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1) 子会社株式 移動平均法による原価法</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。</p> <p>時価のないもの 移動平均法による原価法 なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。</p>	<p>(1) 子会社株式 同左</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの 同左</p> <p>時価のないもの 同左</p>
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	<p>デリバティブ 時価法</p>	<p>デリバティブ 同左</p>
3. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産 定率法(ただし、建物(附属設備を除く)については定額法)を採用しております。 取得価額が10万円以上20万円未満の資産については3年間で均等償却しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 3～52年</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。</p>	<p>(1) 有形固定資産 定率法(ただし、建物(附属設備を除く)については定額法)を採用しております。 取得価額が10万円以上20万円未満の資産については3年間で均等償却しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります 建物 3～50年</p> <p>(2) 無形固定資産 同左</p>

項目	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
4. 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 役員賞与引当金 役員賞与の支出に備えて、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 なお、数理計算上の差異は各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく必要額を計上しております。</p> <p>(5) 訴訟損失引当金 訴訟関連費用の支出に備えるため、将来発生する可能性がある損失等の合理的な見積額を計上しております。 (追加情報) 従来、訴訟関連費用については発生時に費用として処理してはりましたが、警告等の件数が増加する傾向にあり訴訟関連費用の負担額の重要性が増してきたこと及び過去の実績が蓄積されてきたことから、当事業年度より訴訟関連費用について合理的な発生見込額を計上しております。 これにより、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益は、それぞれ303百万円減少しております。</p> <p>(6) 事務所移転費用引当金 来期における事務所移転に伴い発生する費用に備えるため、合理的な見積額を計上しております。 (追加情報) 当事業年度において、事務所移転に伴い発生する取壊し費用等移転関連費用について、合理的な見積額を計上しております。これにより税引前当期純利益は、76百万円減少しております。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 役員賞与引当金 同左</p> <p>(3) 退職給付引当金 同左</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 同左</p> <p>(5) 訴訟損失引当金 同左</p> <p>(6) 事務所移転費用引当金 事務所移転に伴い発生する費用に備えるため、合理的な見積額を計上しております。</p>



項目	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	(1) 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。 (2) 連結納税制度の適用 連結納税制度を適用しております。	(1) 消費税等の会計処理 同左 (2) 連結納税制度の適用 同左

## 【会計方針の変更】

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
	当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年 3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年 3月31日)を適用しております。 この変更に伴う、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響は軽微であります。

## 【表示方法の変更】

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
(損益計算書) 1. 前事業年度まで、営業外収益「その他」に含めて表示しておりました「賃貸料収入」は、営業外収益の合計額の100分の10を超えたため区分掲記しました。 なお、前事業年度における「賃貸料収入」の金額は8百万円であります。 2. 前事業年度まで、営業外費用「その他」に含めて表示しておりました「投資事業組合運用損」は、営業外費用の合計額の100分の10を超えたため区分掲記しました。 なお、前事業年度における「投資事業組合運用損」の金額は10百万円であります。	

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
<p>1 有形固定資産の減損損失累計額 貸借対照表上、減価償却累計額に含めて表示しております。</p> <p>2 関係会社項目 関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。</p> <p style="padding-left: 20px;">(流動資産)</p> <p style="padding-left: 40px;">営業未収入金 181百万円</p> <p style="padding-left: 40px;">未収入金 1,554百万円</p> <p style="padding-left: 20px;">(流動負債)</p> <p style="padding-left: 40px;">未払金 38百万円</p> <p style="padding-left: 40px;">預り金 430百万円</p> <p>3 偶発債務 関係会社の仕入先に対する保証 株式会社バッファロー 284百万円 (3,061千米ドル)</p>	<p>2 関係会社項目 関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。</p> <p style="padding-left: 20px;">(流動資産)</p> <p style="padding-left: 40px;">営業未収入金 145百万円</p> <p style="padding-left: 40px;">未収入金 1,538百万円</p> <p style="padding-left: 20px;">(流動負債)</p> <p style="padding-left: 40px;">未払金 91百万円</p> <p style="padding-left: 40px;">預り金 665百万円</p> <p>3 偶発債務 関係会社の仕入先に対する保証 株式会社バッファロー 289百万円 (3,476千米ドル)</p> <p>4 . 投資有価証券の賃貸借契約 投資有価証券には賃貸借契約により、貸し付けている有価証券911百万円が含まれております。</p>

( 損益計算書関係 )

前事業年度 ( 自 平成21年 4 月 1 日 至 平成22年 3 月31日 )	当事業年度 ( 自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日 )																																																				
<p>1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">経営指導料</td> <td style="text-align: right;">1,174百万円</td> </tr> <tr> <td>不動産賃貸収入</td> <td style="text-align: right;">462百万円</td> </tr> <tr> <td>受取利息</td> <td style="text-align: right;">200百万円</td> </tr> <tr> <td>賃貸料収入</td> <td style="text-align: right;">54百万円</td> </tr> </table> <p>2 販売費及び一般管理費の主な内訳 販売費に属する費用のおおよその割合は1%であり、一般管理費に属する費用の割合はおおよそ99%であります。</p> <p>主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">役員報酬</td> <td style="text-align: right;">124百万円</td> </tr> <tr> <td>給料・賞与</td> <td style="text-align: right;">483百万円</td> </tr> <tr> <td>役員賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">40百万円</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">25百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">20百万円</td> </tr> <tr> <td>支払手数料</td> <td style="text-align: right;">399百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td style="text-align: right;">51百万円</td> </tr> <tr> <td>訴訟損失引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">303百万円</td> </tr> </table> <p>3 減損損失 当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">場所</th> <th style="width: 40%;">用途</th> <th style="width: 40%;">種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛知県名古屋市</td> <td>統括事業施設等(共用資産)</td> <td>建物、構築物</td> </tr> </tbody> </table> <p>当事業年度において、事務所移転の意思決定をし、その事務所建物等のうち将来の使用見込みがないことが決定されたものについて回収可能価額まで減額し、当該減少額の合計を減損損失(107百万円)として特別損失に計上いたしました。その内訳は、建物(107百万円)及び構築物(0百万円)であります。</p> <p>なお、これらの資産の回収可能価額は備忘価額をもって評価しております。</p>	経営指導料	1,174百万円	不動産賃貸収入	462百万円	受取利息	200百万円	賃貸料収入	54百万円	役員報酬	124百万円	給料・賞与	483百万円	役員賞与引当金繰入額	40百万円	役員退職慰労引当金繰入額	25百万円	退職給付費用	20百万円	支払手数料	399百万円	減価償却費	51百万円	訴訟損失引当金繰入額	303百万円	場所	用途	種類	愛知県名古屋市	統括事業施設等(共用資産)	建物、構築物	<p>1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">経営指導料</td> <td style="text-align: right;">1,346百万円</td> </tr> <tr> <td>不動産賃貸収入</td> <td style="text-align: right;">504百万円</td> </tr> <tr> <td>受取利息</td> <td style="text-align: right;">89百万円</td> </tr> <tr> <td>賃貸料収入</td> <td style="text-align: right;">81百万円</td> </tr> </table> <p>2 販売費及び一般管理費の主な内訳 販売費に属する費用のおおよその割合は1%であり、一般管理費に属する費用の割合はおおよそ99%であります。</p> <p>主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">役員報酬</td> <td style="text-align: right;">130百万円</td> </tr> <tr> <td>給料・賞与</td> <td style="text-align: right;">562百万円</td> </tr> <tr> <td>役員賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">41百万円</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">25百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">12百万円</td> </tr> <tr> <td>支払手数料</td> <td style="text-align: right;">456百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td style="text-align: right;">69百万円</td> </tr> </table>	経営指導料	1,346百万円	不動産賃貸収入	504百万円	受取利息	89百万円	賃貸料収入	81百万円	役員報酬	130百万円	給料・賞与	562百万円	役員賞与引当金繰入額	41百万円	役員退職慰労引当金繰入額	25百万円	退職給付費用	12百万円	支払手数料	456百万円	減価償却費	69百万円
経営指導料	1,174百万円																																																				
不動産賃貸収入	462百万円																																																				
受取利息	200百万円																																																				
賃貸料収入	54百万円																																																				
役員報酬	124百万円																																																				
給料・賞与	483百万円																																																				
役員賞与引当金繰入額	40百万円																																																				
役員退職慰労引当金繰入額	25百万円																																																				
退職給付費用	20百万円																																																				
支払手数料	399百万円																																																				
減価償却費	51百万円																																																				
訴訟損失引当金繰入額	303百万円																																																				
場所	用途	種類																																																			
愛知県名古屋市	統括事業施設等(共用資産)	建物、構築物																																																			
経営指導料	1,346百万円																																																				
不動産賃貸収入	504百万円																																																				
受取利息	89百万円																																																				
賃貸料収入	81百万円																																																				
役員報酬	130百万円																																																				
給料・賞与	562百万円																																																				
役員賞与引当金繰入額	41百万円																																																				
役員退職慰労引当金繰入額	25百万円																																																				
退職給付費用	12百万円																																																				
支払手数料	456百万円																																																				
減価償却費	69百万円																																																				

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
普通株式(注)	22,393	495	-	22,888
合計	22,393	495	-	22,888

(注) 単元未満株式の買取りによる増加495株であります。

当事業年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
普通株式(注)	22,888	493	-	23,381
合計	22,888	493	-	23,381

(注) 単元未満株式の買取りによる増加493株であります。

(リース取引関係)

前事業年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(有価証券関係)

前事業年度(平成22年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 関係会社株式10,909百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成23年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式10,541百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## (税効果会計関係)

前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)																																																																																																
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(百万円)</p> <table border="0"> <tr><td>繰延税金資産</td><td></td></tr> <tr><td>  関係会社株式評価損</td><td style="text-align: right;">50</td></tr> <tr><td>  役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">47</td></tr> <tr><td>  税務上の繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">134</td></tr> <tr><td>  未払賞与</td><td style="text-align: right;">21</td></tr> <tr><td>  退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">25</td></tr> <tr><td>  訴訟損失引当金</td><td style="text-align: right;">121</td></tr> <tr><td>  事務所移転費用引当金</td><td style="text-align: right;">30</td></tr> <tr><td>  減損損失</td><td style="text-align: right;">43</td></tr> <tr><td>  その他</td><td style="text-align: right;">8</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">482</td></tr> <tr><td>  評価性引当額</td><td style="text-align: right;">83</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right;">399</td></tr> <tr><td>繰延税金負債</td><td></td></tr> <tr><td>  子会社の減資に伴う株式譲渡損</td><td style="text-align: right;">1,717</td></tr> <tr><td>  その他</td><td style="text-align: right;">29</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right;">1,747</td></tr> <tr><td>繰延税金資産(負債)の純額</td><td style="text-align: right;">1,347</td></tr> </table> <p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(%)</p> <table border="0"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.6</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>  受取配当金等永久に益金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">57.8</td></tr> <tr><td>  評価性引当額の増減</td><td style="text-align: right;">38.3</td></tr> <tr><td>  外国税額控除不能額</td><td style="text-align: right;">1.9</td></tr> <tr><td>  その他</td><td style="text-align: right;">1.1</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;">52.5</td></tr> </table> <p>3. 税効果会計に使用する法定実効税率の変更</p> <p>平成21年12月28日に「名古屋市市民税減税条例」が公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、前事業年度の40.6%から40.2%に変更されております。</p> <p>この変更による影響額は軽微であります。</p>	繰延税金資産		関係会社株式評価損	50	役員退職慰労引当金	47	税務上の繰越欠損金	134	未払賞与	21	退職給付引当金	25	訴訟損失引当金	121	事務所移転費用引当金	30	減損損失	43	その他	8	繰延税金資産小計	482	評価性引当額	83	繰延税金資産合計	399	繰延税金負債		子会社の減資に伴う株式譲渡損	1,717	その他	29	繰延税金負債合計	1,747	繰延税金資産(負債)の純額	1,347	法定実効税率	40.6	(調整)		受取配当金等永久に益金に算入されない項目	57.8	評価性引当額の増減	38.3	外国税額控除不能額	1.9	その他	1.1	税効果会計適用後の法人税等の負担率	52.5	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(百万円)</p> <table border="0"> <tr><td>繰延税金資産</td><td></td></tr> <tr><td>  関係会社株式評価損</td><td style="text-align: right;">106</td></tr> <tr><td>  役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">56</td></tr> <tr><td>  税務上の繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">939</td></tr> <tr><td>  未払賞与</td><td style="text-align: right;">12</td></tr> <tr><td>  退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">20</td></tr> <tr><td>  訴訟損失引当金</td><td style="text-align: right;">12</td></tr> <tr><td>  その他</td><td style="text-align: right;">5</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">1,152</td></tr> <tr><td>  評価性引当額</td><td style="text-align: right;">1,083</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right;">69</td></tr> <tr><td>繰延税金負債</td><td></td></tr> <tr><td>  子会社の減資に伴う株式譲渡損</td><td style="text-align: right;">1,735</td></tr> <tr><td>  その他</td><td style="text-align: right;">30</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right;">1,766</td></tr> <tr><td>繰延税金資産(負債)の純額</td><td style="text-align: right;">1,697</td></tr> </table> <p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(%)</p> <table border="0"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.6</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>  受取配当金等永久に益金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">38.6</td></tr> <tr><td>  評価性引当額の増減</td><td style="text-align: right;">4.3</td></tr> <tr><td>  外国税額控除不能額</td><td style="text-align: right;">1.1</td></tr> <tr><td>  その他</td><td style="text-align: right;">1.2</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;">8.6</td></tr> </table> <p>3. 税効果会計に使用する法定実効税率の変更</p> <p>当事業年度に名古屋市市民税減税条例の一部を改正する条例(平成22年3月31日公布)が公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、前事業年度の40.2%から40.6%に変更されております。</p> <p>この変更による影響額は軽微であります。</p>	繰延税金資産		関係会社株式評価損	106	役員退職慰労引当金	56	税務上の繰越欠損金	939	未払賞与	12	退職給付引当金	20	訴訟損失引当金	12	その他	5	繰延税金資産小計	1,152	評価性引当額	1,083	繰延税金資産合計	69	繰延税金負債		子会社の減資に伴う株式譲渡損	1,735	その他	30	繰延税金負債合計	1,766	繰延税金資産(負債)の純額	1,697	法定実効税率	40.6	(調整)		受取配当金等永久に益金に算入されない項目	38.6	評価性引当額の増減	4.3	外国税額控除不能額	1.1	その他	1.2	税効果会計適用後の法人税等の負担率	8.6
繰延税金資産																																																																																																	
関係会社株式評価損	50																																																																																																
役員退職慰労引当金	47																																																																																																
税務上の繰越欠損金	134																																																																																																
未払賞与	21																																																																																																
退職給付引当金	25																																																																																																
訴訟損失引当金	121																																																																																																
事務所移転費用引当金	30																																																																																																
減損損失	43																																																																																																
その他	8																																																																																																
繰延税金資産小計	482																																																																																																
評価性引当額	83																																																																																																
繰延税金資産合計	399																																																																																																
繰延税金負債																																																																																																	
子会社の減資に伴う株式譲渡損	1,717																																																																																																
その他	29																																																																																																
繰延税金負債合計	1,747																																																																																																
繰延税金資産(負債)の純額	1,347																																																																																																
法定実効税率	40.6																																																																																																
(調整)																																																																																																	
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	57.8																																																																																																
評価性引当額の増減	38.3																																																																																																
外国税額控除不能額	1.9																																																																																																
その他	1.1																																																																																																
税効果会計適用後の法人税等の負担率	52.5																																																																																																
繰延税金資産																																																																																																	
関係会社株式評価損	106																																																																																																
役員退職慰労引当金	56																																																																																																
税務上の繰越欠損金	939																																																																																																
未払賞与	12																																																																																																
退職給付引当金	20																																																																																																
訴訟損失引当金	12																																																																																																
その他	5																																																																																																
繰延税金資産小計	1,152																																																																																																
評価性引当額	1,083																																																																																																
繰延税金資産合計	69																																																																																																
繰延税金負債																																																																																																	
子会社の減資に伴う株式譲渡損	1,735																																																																																																
その他	30																																																																																																
繰延税金負債合計	1,766																																																																																																
繰延税金資産(負債)の純額	1,697																																																																																																
法定実効税率	40.6																																																																																																
(調整)																																																																																																	
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	38.6																																																																																																
評価性引当額の増減	4.3																																																																																																
外国税額控除不能額	1.1																																																																																																
その他	1.2																																																																																																
税効果会計適用後の法人税等の負担率	8.6																																																																																																

(資産除去債務関係)

当事業年度末(平成23年3月31日)

重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
1株当たり純資産額 1,651.04円	1株当たり純資産額 1,793.76円
1株当たり当期純利益金額 58.96円	1株当たり当期純利益金額 182.69円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注)1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前事業年度末 (平成22年3月31日)	当事業年度末 (平成23年3月31日)
純資産の部の合計金額(百万円)	36,682	39,847
純資産の部の合計金額から控除する金額(百万円)	4	-
(うち新株予約権)	(4)	(-)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	36,677	39,847
1株当たり純資産の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	22,214,985	22,214,492

(注)2. 1株当たり当期純利益額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	1,309	4,058
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	1,309	4,058
普通株式の期中平均株式数(株)	22,215,226	22,214,795
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	平成18年6月29日定時株主総会決議によるストック・オプション(株式の数7,000株)	

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 【附属明細表】

## 【有価証券明細表】

## 【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他有価証券	東海物産株式会社	308,150	112
		ECS ICT Berhad	2,000,000	88
		デジタルリユース株式会社	1,470	84
		株式会社デジオン	1,200	36
		Cloud Engines, Inc.	401,876	24
		中部国際空港株式会社	304	15
		株式会社ブイネット・ジャパン	200	8
		株式会社システムソリューションセンター とちぎ	200	5
		スターキャット・ケーブルネットワーク	120	5
		株式会社三菱東京フィナンシャルグループ	12,840	4
		その他(5銘柄)	197,962	10
		小計	2,924,322	397
		計	2,924,322	397

## 【債券】

		銘柄	券面総額(百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)
有価証券	その他有価証券	ゼネラル・エレクトリック・ キャピタル・コーポレーション	100	100
		小計	100	100
投資有価証券	その他有価証券	312回 利付国債	800	798
		小計	800	798
		計	900	899

## 【その他】

		種類及び銘柄	投資口数等(口)	貸借対照表計上額 (百万円)
有価証券	その他有価証券	(投資信託受益証券) 投資信託受益証券 3銘柄	900,000	9,000
		(投資信託受益証券) 投資信託受益証券 2銘柄	1,844	233
投資有価証券	その他有価証券	(投資事業有限責任組合) 投資事業有限責任組合 3銘柄	-	37
		小計	901,844	9,270
		計	901,844	9,270

## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は 償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	142	59	129	73	8	6	64
構築物	13	42	1	54	8	4	45
工具、器具及び備品	6	26	-	32	8	5	23
土地	158	-	-	158	-	-	158
有形固定資産計	320	129	131	318	25	16	292
無形固定資産							
ソフトウェア	273	122	-	396	118	61	278
商標権	-	4	-	4	-	-	4
その他	2	184	114	72	-	-	72
無形固定資産計	276	311	114	473	118	61	355
長期前払費用	0	0	-	1	0	0	0

## 【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	9	-	-	-	9
訴訟損失引当金	303	-	42	216	44
事務所移転費用引当金	76	-	76	-	-
役員賞与引当金	40	41	40	-	41
役員退職慰労引当金	138	25	-	-	163

(注) 訴訟損失引当金の当期減少額の「その他」は、戻入によるものであります。



## (2)【主な資産及び負債の内容】

## 流動資産

## イ．現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	0
預金	
当座預金	572
普通預金	4,085
定期預金	12,880
別段預金	6
小計	17,545
合計	17,545

## ロ．営業未収入金

相手先	金額(百万円)
株式会社バッファロー	119
株式会社バッファロー物流	4
シー・エフ・デー販売株式会社	4
バッファローダイレクト株式会社	3
BUFFALO TECHNOLOGY(USA), INC.	3
その他	9
合計	145

## 営業未収入金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	次期繰越高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間(日) (A)+(D)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	(B)
181	1,793	1,830	145	92.6	33.2

(注) 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

## ハ．関係会社短期貸付金

区分	金額(百万円)
株式会社バッファロー	3,000
合計	3,000

## 固定資産

## イ．関係会社株式

区分	金額(百万円)
株式会社バッファロー	8,963
株式会社バッファローコクヨサプライ	850
シー・エフ・デー販売株式会社	228
巴比禄股?有限公司	121
BUFFALO TECHNOLOGY(USA), INC.	121
その他	255
合計	10,541

## 流動負債

## イ．支払手形

## 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
株式会社日経広告	2
大日本印刷株式会社	0
株式会社中央経済社	0
合計	3

## 期日別内訳

期日	金額(百万円)
平成23年 4月	1
5月	0
6月	0
合計	3

## (3)【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・売渡し	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 本店
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所 買取・売渡手数料	無料
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://melco-hd.jp/koukoku/">http://melco-hd.jp/koukoku/</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有しておりません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書  
事業年度（第24期）（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）平成22年6月29日東海財務局長に提出
- (2) 内部統制報告書及びその添付書類  
平成22年6月29日東海財務局長に提出
- (3) 四半期報告書及び確認書  
（第25期第1四半期）（自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日）平成22年8月12日東海財務局長に提出  
（第25期第2四半期）（自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日）平成22年11月12日東海財務局長に提出  
（第25期第3四半期）（自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日）平成23年2月14日東海財務局長に提出
- (4) 臨時報告書  
平成22年7月1日東海財務局長に提出  
金融商品取引法第24条の5第4項並びに企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議案ごとの議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。  
平成22年12月15日東海財務局長に提出  
金融商品取引法第24条の5第4項並びに企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号（主要株主の異動）の規定に基づく臨時報告書であります。  
平成23年5月24日東海財務局長に提出  
金融商品取引法第24条の5第4項並びに企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号（特定子会社の異動）の規定に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年6月21日

株式会社メルコホールディングス

取締役会 御中

監査法人東海会計社

代表社員 公認会計士 小島 興一 印  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 後藤 久貴 印  
業務執行社員

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社メルコホールディングスの平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社メルコホールディングス及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社メルコホールディングスの平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社メルコホールディングスが平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成23年6月21日

株式会社メルコホールディングス

取締役会 御中

監査法人東海会計社

代表社員 公認会計士 塚本 憲司 印  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 後藤 久貴 印  
業務執行社員

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社メルコホールディングスの平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社メルコホールディングス及び連結子会社の平成23年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社メルコホールディングスの平成23年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社メルコホールディングスが平成23年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成22年6月21日

株式会社メルコホールディングス

取締役会 御中

### 監査法人東海会計社

代表社員 公認会計士 小島 興一 印  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 後藤 久貴 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社メルコホールディングスの平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第24期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社メルコホールディングスの平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。



## 独立監査人の監査報告書

平成23年6月21日

株式会社メルコホールディングス

取締役会 御中

### 監査法人東海会計社

代表社員 公認会計士 塚本 憲司 印  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 後藤 久貴 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社メルコホールディングスの平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第25期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社メルコホールディングスの平成23年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。